

日常生活圏域別の状況、介護予防・日常生活圏域二一ズ調査結果について

○川越市の状況

- 1 人口
- 2 要介護認定等の状況
- 3 高齢者等実態調査結果

○各圏域の状況

- 1 人口
- 2 要介護認定等の状況
- 3 高齢者等実態調査結果

○介護予防・日常生活圏域二一ズ調査の結果

1. 運動器機能リスク高齢者の割合
2. 低栄養状態の高齢者の割合
3. 口腔機能が低下している高齢者の割合
4. 閉じこもり傾向の高齢者の割合
5. 認知症リスク高齢者の割合
6. うつ傾向の高齢者の割合
7. 咀嚼機能リスク高齢者の割合
8. 転倒リスク高齢者の割合
9. 老研指標：IADL（手段的日常生活動作）が低い高齢者の割合
10. 老研指標：老研式活動能力指標総合評価

川越市の状況

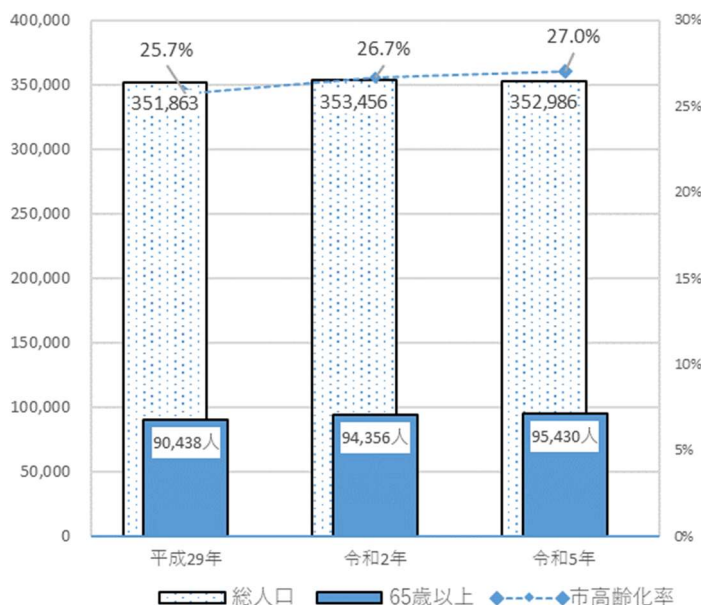
川越市（全体）



1 人口

令和5（2023）年4月1日時点の川越市の総人口は352,986人、そのうち65歳以上の人口は95,430人となっており、高齢化率は27.0%です。

区分	全体	男性	女性
人口	352,986人	175,918人	177,068人
高齢者数	95,430人	42,683人	52,747人
65～74歳	42,600人	20,228人	22,372人
75～84歳	38,659人	17,248人	21,411人
85歳以上	14,171人	5,207人	8,964人
高齢化率	27.0%	24.3%	29.8%
総世帯数	166,362世帯		
高齢者のみの世帯数	43,975世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	24,569世帯		
高齢者夫婦の世帯	18,604世帯		
その他の高齢者のみの世帯	802世帯		



市内人口については、平成29（2017）年から令和5（2023）年にかけて1,123人増加しており、65歳以上の人口は4,992人増加しています。高齢化率は平成29（2017）年から令和5（2023）年にかけて1.3ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の川越市の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は17,193人、認定率は17.9%です。

要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は9,841人となっています。

①要支援・要介護認定者数

介護度	人数
要支援1	2,203人
要支援2	1,910人
要介護1	4,119人
要介護2	2,677人
要介護3	2,567人
要介護4	2,298人
要介護5	1,419人
合計	17,193人
認定率	17.9%

※住所地特例431人を含む

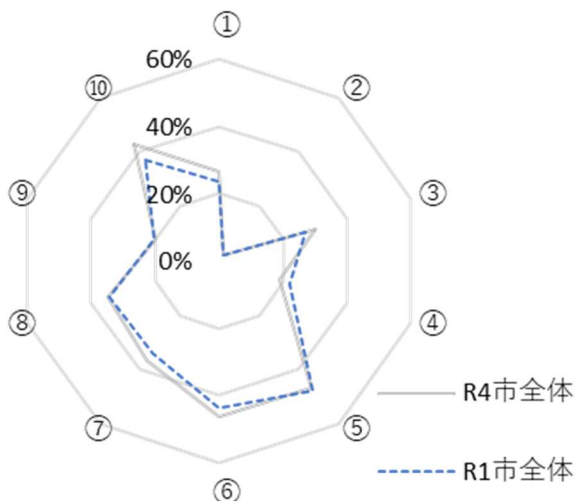
②認知症日常生活自立度

自立度	人数
自立	3,317人
I	3,850人
Ⅱa	1,410人
Ⅱb	3,839人
Ⅲa	3,278人
Ⅲb	552人
Ⅳ	724人
M	38人
Ⅱ以上合計	9,841人

※住所地特例431人を含む

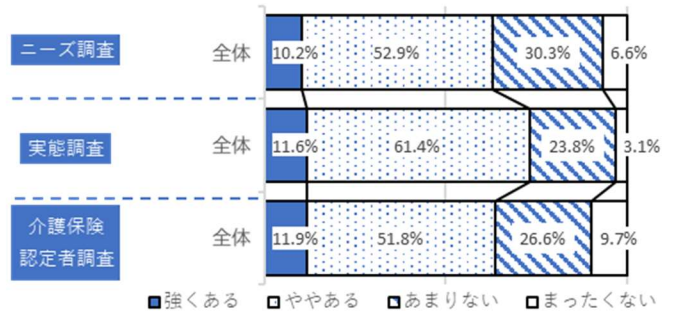
3 高齢者等実態調査結果

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。運動器機能リスクのある高齢者の割合が、前回調査時から3.0ポイント上昇しました。

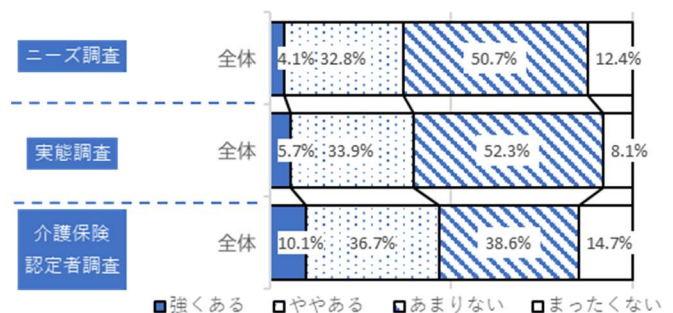


- ①運動器機能リスク
- ②低栄養状態
- ③口腔機能低下
- ④閉じこもり傾向
- ⑤認知症リスク
- ⑥うつ傾向
- ⑦咀嚼機能リスク
- ⑧転倒リスク
- ⑨IADL(手段的日常生活動作)が低い高齢者
- ⑩老研式活動能力指標総合評価が低い高齢者

○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



各圏域の状況

本庁第1

第1支会 第2支会 第4支会

■地域包括支援センター

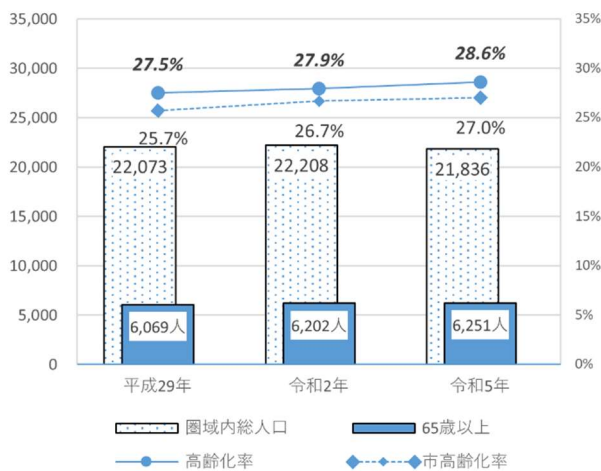
きた(石原町 1-27-7)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の本庁第1の総人口は21,836人、そのうち65歳以上の人口は6,251人となっており、高齢化率は28.6%です。

本庁第1の高齢化率は市内で5番目に高く、市全体の高齢化率を1.6ポイント上回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	21,836人	10,650人	11,186人
高齢者数	6,251人	2,707人	3,544人
65~74歳	2,845人	1,356人	1,489人
75~84歳	2,329人	1,008人	1,321人
85歳以上	1,077人	343人	734人
高齢化率	28.6%	25.4%	31.7%
総世帯数	10,243世帯		
高齢者のみの世帯数	2,918世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	1,727世帯		
高齢者夫婦の世帯	1,110世帯		
その他の高齢者のみの世帯	81世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて237人減少しているものの、65歳以上の人口は182人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて1.1ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の本庁第1の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は1,208人、認定率は19.3%であり、市全体の認定率を1.4ポイント上回っています。

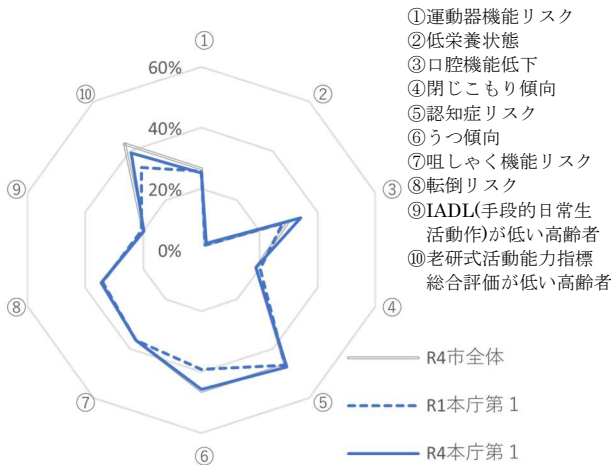
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は717人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

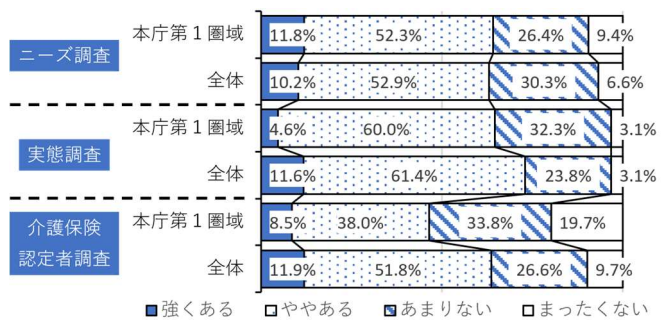
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	130人	自立	217人
要支援2	142人	I	262人
要介護1	276人	Ⅱa	113人
要介護2	192人	Ⅱb	286人
要介護3	184人	Ⅲa	235人
要介護4	190人	Ⅲb	24人
要介護5	94人	Ⅳ	59人
合計	1,208人	M	0人
認定率	19.3%	Ⅱ以上合計	717人

3 高齢者等実態調査結果

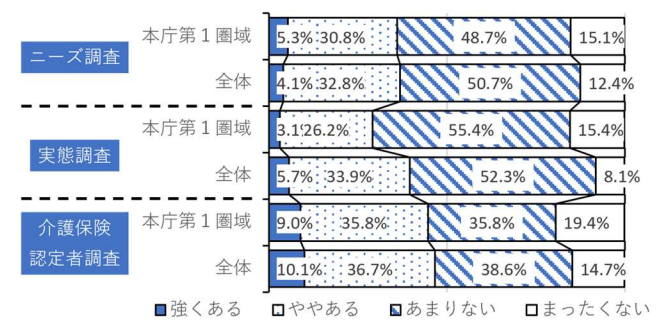
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。うつ傾向のある高齢者の割合が、前回調査時から6.6ポイント上昇しました。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性 (令和5年4月1日時点)

- 川越市の観光地の中心地、市街地であり、住宅が密集している。交通アクセスがよい。
- 高齢者のみの世帯が多くなっており、空き家も目立つ。
- 地域活動を積極的、中心的に担っていける世代が少ないことから、老人会の活動や継続に関しても終了となっている様子がある。
- 自主グループ活動の状況を見ても新しい参加者がほとんどみられない。
- 活動可能な方々は、地域外の場所で活動しており、地域への関心が低い感じがある。
- 地域住民が使用される自治会館の広さ、環境等に差が見られる。

第1支会：市役所周辺地区である。ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯が多い。市役所周辺の地区は、日常生活の買い物をする商店等が少なく、困難になっている。

第2支会：戸建住宅が多い。高齢者世帯、または高齢者と単身の子の世帯が多い。住宅街ではある日常生活に必要な物品等を購入できる商店が少ない。主にドラッグストア、コンビニエンスストアが多くなっている。

第4支会：戸建住宅の中に高層マンションがある。ひとり暮らし高齢者、高齢者と単身の子の世帯が多い様子である。やや公共交通機関に近い場所でもあり、地区外に活動先を持つ方がいる。

本庁第2

第5支会 第6支会 第7支会 第8支会 第11支会

■地域包括支援センター

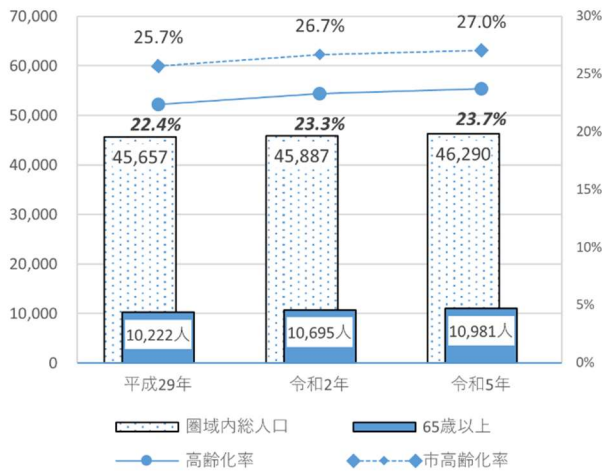
中央ひがし(仙波町 3-16-13 B02) [第5~8支会]
みなみ(中台南 1-19-4) [第11支会]



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の本庁第2の総人口は46,290人、そのうち65歳以上の人口は10,981人となっており、高齢化率は23.7%です。

本庁第2の高齢化率は市内で2番目に低く、市全体の高齢化率を3.3ポイント下回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	46,290人	23,004人	23,286人
高齢者数	10,981人	4,872人	6,109人
65~74歳	5,170人	2,509人	2,661人
75~84歳	3,944人	1,735人	2,209人
85歳以上	1,867人	628人	1,239人
高齢化率	23.7%	21.2%	26.2%
総世帯数	23,716世帯		
高齢者のみの世帯数	5,365世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	3,283世帯		
高齢者夫婦の世帯	1,976世帯		
その他の高齢者のみの世帯	106世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて633人増加しており、65歳以上の人口は759人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて1.3ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の本庁第2の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は2,002人、認定率は18.2%であり、市全体の認定率を0.3ポイント上回っています。

要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は1,114人となっています。

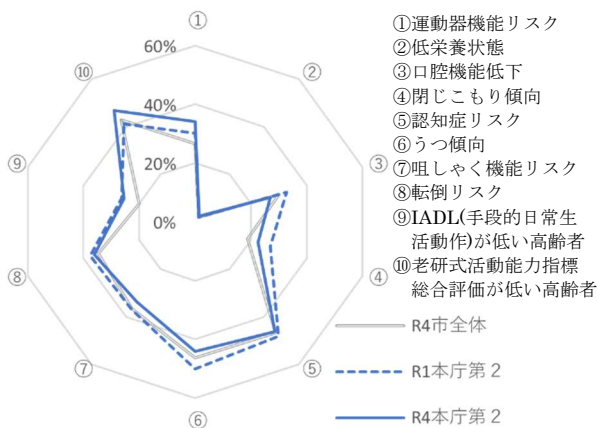
①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

介護度	人数
要支援1	287人
要支援2	220人
要介護1	464人
要介護2	304人
要介護3	288人
要介護4	279人
要介護5	160人
合計	2,002人
認定率	18.2%

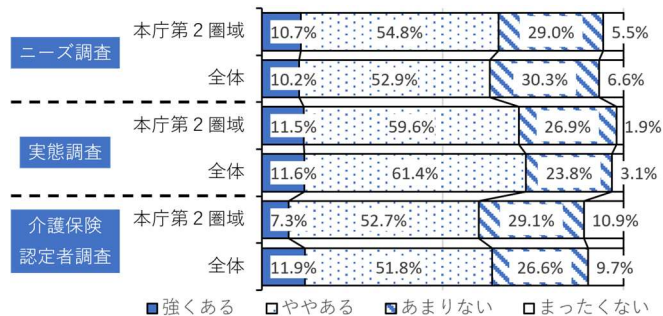
自立度	人数
自立	426人
I	441人
Ⅱa	150人
Ⅱb	454人
Ⅲa	360人
Ⅲb	62人
Ⅳ	82人
M	6人
Ⅱ以上合計	1,114人

3 高齢者等実態調査結果

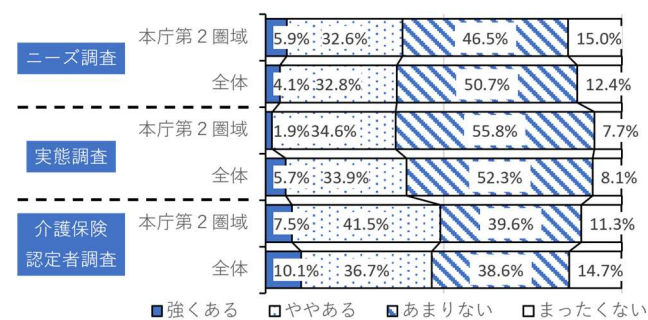
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。6つの項目で前回調査時より割合の減少が見られました。運動器機能リスクや閉じこもり傾向については、市全体の平均を上回っています。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性(令和5年4月1日時点)

- 川越駅、本川越駅周辺の商店街やマンション、そこを取り囲む住宅街となっており、ひとり暮らし高齢者が多い。
- 長年地域で過ごしてきた方と、近年新たに越してきた方が混在しているが、マンションへ転居してきた住人は自治会に参加していない方も多い。

第5支会:本庁管内のほぼ真ん中に位置し、戸建て住宅やアパートが多い住宅地であり、ひとり暮らし高齢者の割合が多い。小仙波町は、5町内で一つの自治会館を使用している。

第6支会:川越駅から本川越駅周辺は、商店街やマンションが多い。若い世代の方もいるが、ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦のみ世帯も多い。日常生活に必要なものが近くにあり、高齢者のみでも住みやすい地区であると感じる。

第7支会:川越駅周辺は、マンションが多く、少し離れると市営住宅、戸建て住宅やアパートが多い。またバスが通っている。スーパー、ドラッグストア、銀行、駅など、生活に必要なものが身近にある。

第8支会:川越駅から16号を渡り、烏頭坂付近から東西に位置し、岸町1丁目～3丁目で構成しており、市営、県営住宅が多い。スーパーが無く、ドラッグストアやコンビニエンスストアがある。日常の買い物エリアが、1丁目川越駅、2丁目が新河岸駅方面、3丁目が新宿方面と丁内により異なり、移動スーパーの対象エリアである。

第11支会:川越駅に近い新宿1丁目、2丁目から駅までと20～30分の6丁目までの住宅地である。路線バスが通っており利便性がよい。スーパーや店舗が立ち並ぶ地域である。新宿5丁目を中心に地域活動が活発に行われているが、自治会活動がほとんどない地区もある。

本庁第3

第3支会 第9支会 第10支会

■地域包括支援センター

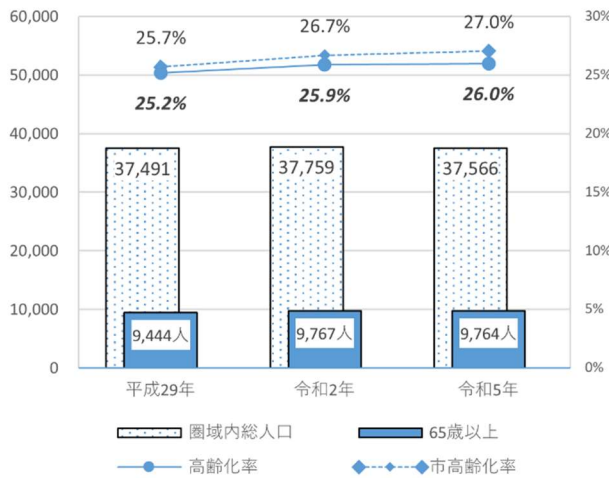
中央にし(中原町2-1-9 川越市子育て安心施設4階)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の本庁第3の総人口は37,566人、そのうち65歳以上の人口は9,764人となっており、高齢化率は26.0%です。

本庁第3の高齢化率は市内で5番目に低く、市全体の高齢化率を1.0ポイント下回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	37,566人	18,659人	18,907人
高齢者数	9,764人	4,307人	5,457人
65～74歳	4,329人	2,067人	2,262人
75～84歳	3,800人	1,678人	2,122人
85歳以上	1,635人	562人	1,073人
高齢化率	26.0%	23.1%	28.9%
総世帯数	19,002世帯		
高齢者のみの世帯数	4,689世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	2,752世帯		
高齢者夫婦の世帯	1,834世帯		
その他の高齢者のみの世帯	103世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて75人増加しており、65歳以上の人口は320人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて0.8ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の本庁第3の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は1,840人、認定率は18.8%であり、市全体の認定率を0.9ポイント上回っています。

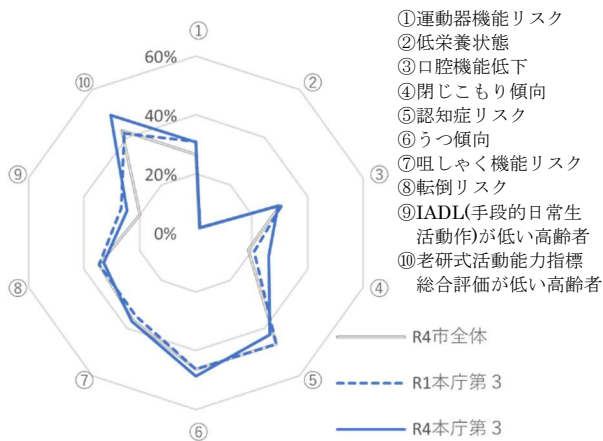
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は1,049人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

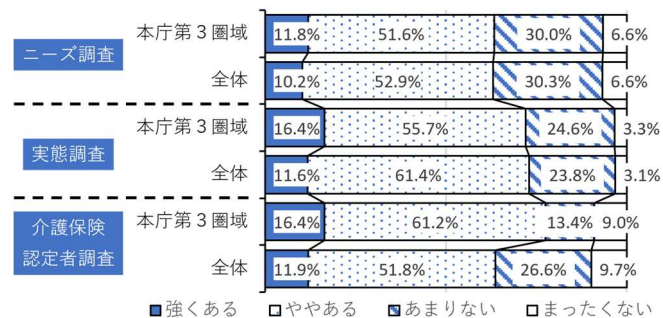
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	246人	自立	372人
要支援2	197人	I	399人
要介護1	470人	Ⅱa	167人
要介護2	287人	Ⅱb	424人
要介護3	256人	Ⅲa	352人
要介護4	233人	Ⅲb	46人
要介護5	151人	Ⅳ	58人
合計	1,840人	M	2人
認定率	18.8%	Ⅱ以上合計	1,049人

3 高齢者等実態調査結果

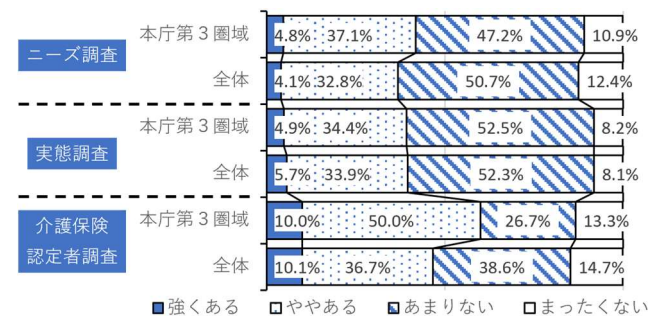
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。閉じこもり傾向が前回調査時から5.2ポイント上昇し、市全体の割合を7.3ポイント上回っています。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性 (令和5年4月1日時点)

- 川越・本川越・川越市駅などは、利便性から、定年退職、高齢者世帯やひとり暮らしになってから、駅周辺のマンションやアパート等に転居される方もいる。
- 昔ながらの商店街や農村地区で、お祭りを中心に結びついている地域もある。
- 市民センターや公民館のない地域である。また、自治会館も狭く老朽化しているところがあり、地域住民が集い、話し合いや活動するなどの交流の場が限られる。

第3支会: 農村部と都市部が混在している。地域ごとに特性をいかした地域活動が展開されている。単身向けのアパートも多く、ひとり暮らし高齢者も多くなってきている一方で、新たな住宅地も増え、若い世代も増えてきている。

第9支会: 住宅街で地域とのつながりを強く望む住民がいる一方で、最低限のつきあいを望む住民も多い。地域の組織力を生かした地域活動が展開され、自治会ごとの介護予防の取り組みも、新型コロナウイルスの感染者数が落ち着くにつれ再開している。

第10支会: 交通の便の良い地域。地域の行事を大切にしつつ、市外・県外での活動を好まれる方も多い。交通や生活の利便性もあり、マンション等に郊外からの転居者(高齢者)も増加してきている。

芳野

芳野支会

■地域包括支援センター

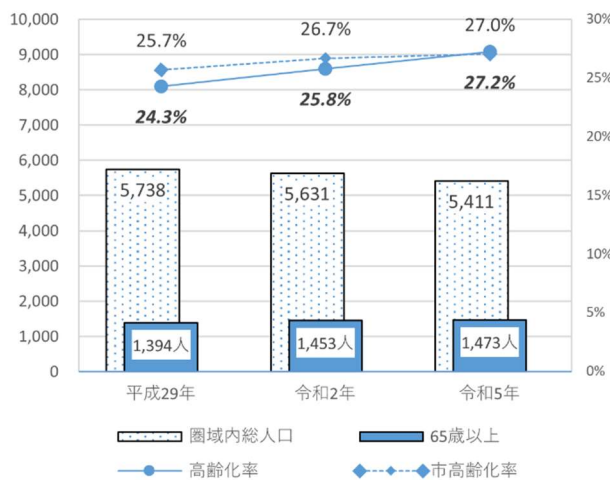
ひがし(大字鴨田 3355-1)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の芳野の総人口は5,411人、そのうち65歳以上の人口は1,473人となっており、高齢化率は27.2%です。

芳野の高齢化率は市内で7番目に高く、市全体の高齢化率を0.2ポイント上回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	5,411人	2,683人	2,728人
高齢者数	1,473人	672人	801人
65～74歳	713人	343人	370人
75～84歳	513人	243人	270人
85歳以上	247人	86人	161人
高齢化率	27.2%	25.0%	29.4%
総世帯数	2,228世帯		
高齢者のみの世帯数	535世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	273世帯		
高齢者夫婦の世帯	238世帯		
その他の高齢者のみの世帯	24世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて327人減少しているものの、65歳以上の人口は79人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて2.9ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の芳野の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は246人、認定率は16.7%であり、市全体の認定率を1.2ポイント下回っています。

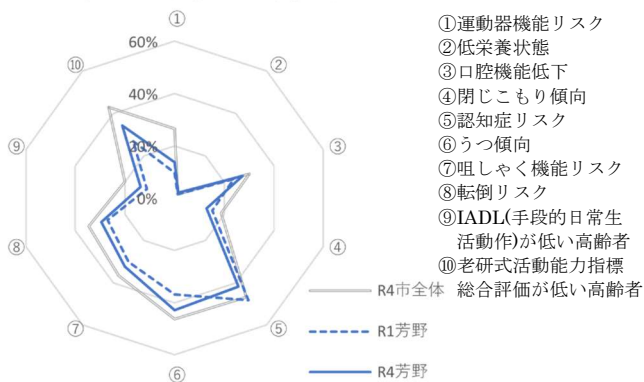
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は144人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

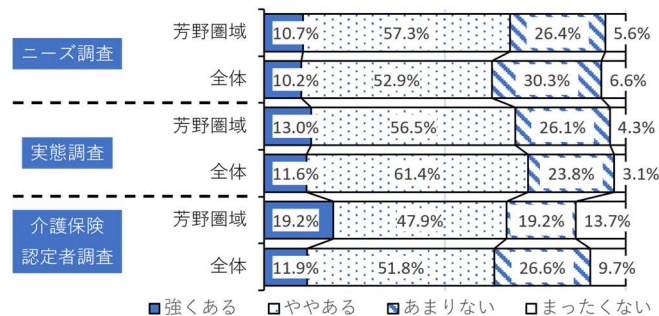
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	17人	自立	48人
要支援2	28人	I	52人
要介護1	54人	Ⅱa	21人
要介護2	44人	Ⅱb	49人
要介護3	41人	Ⅲa	50人
要介護4	33人	Ⅲb	9人
要介護5	29人	Ⅳ	15人
合計	246人	M	0人
認定率	16.7%	Ⅱ以上合計	144人

3 高齢者等実態調査結果

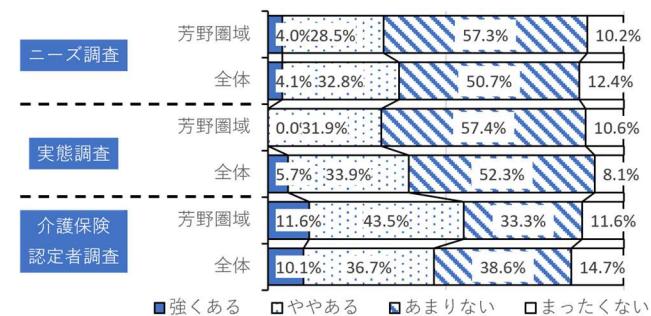
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。低栄養状態リスクの割合以外は市全体を下回っていて、運動器機能リスクについては12.9ポイント下回っています。前回調査時と比較すると、8項目で数値の上昇が見られました。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性 (令和5年4月1日時点)

- ・ 農村地域であり、同居の割合が多い。
- ・ 住民の移動手段の多くは、自家用車である。
- ・ 地区内に市民センターがあり、自治会、地区社協、民生委員協議会定例会等は市民センターを中心に開催されている。昔からのつながりを大切にしており、人とのつながりが強い。
- ・ スポーツ関係では、サンライフ、農業ふれあいセンター、総合運動公園など近くに体育館のような施設がある。また、各自治会主体のスポーツに関するクラブ活動があり、自由に参加できる。
- ・ 自主グループは、8か所中、6か所が活動中である。
- ・ 大学病院が1つあり、医療・クリニックはない。

古谷

古谷支会

■地域包括支援センター

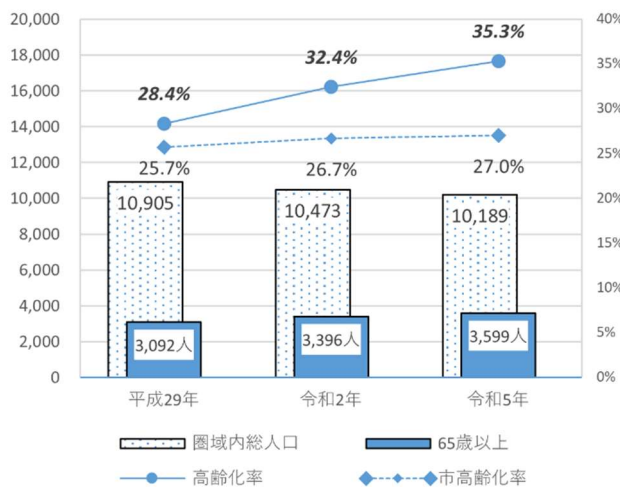
ひがし(並木新町 2-5 桜ビル2階)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の古谷の総人口は10,189人、そのうち65歳以上の人口は3,599人となっており、高齢化率は35.3%です。

古谷の高齢化率は市内で2番目に高く、市全体の高齢化率を8.3ポイント上回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	10,189人	5,070人	5,119人
高齢者数	3,599人	1,715人	1,884人
65～74歳	1,980人	953人	1,027人
75～84歳	1,255人	624人	631人
85歳以上	364人	138人	226人
高齢化率	35.3%	33.8%	36.8%
総世帯数	4,483世帯		
高齢者のみの世帯数	1,502世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	711世帯		
高齢者夫婦の世帯	757世帯		
その他の高齢者のみの世帯	34世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて716人減少しているものの、65歳以上の人口は507人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて6.9ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の古谷の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は509人、認定率は14.1%であり、市全体の認定率を3.8ポイント下回っています。

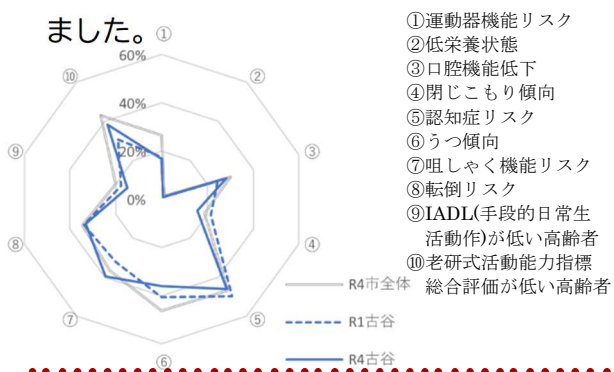
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は305人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

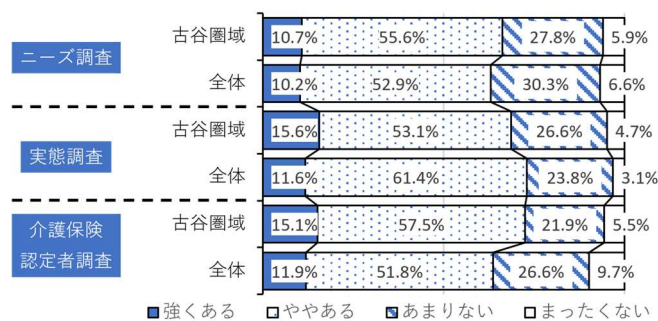
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	40人	自立	73人
要支援2	39人	I	121人
要介護1	134人	Ⅱa	40人
要介護2	90人	Ⅱb	119人
要介護3	89人	Ⅲa	99人
要介護4	55人	Ⅲb	21人
要介護5	62人	Ⅳ	26人
合計	509人	M	0人
認定率	14.1%	Ⅱ以上合計	305人

3 高齢者等実態調査結果

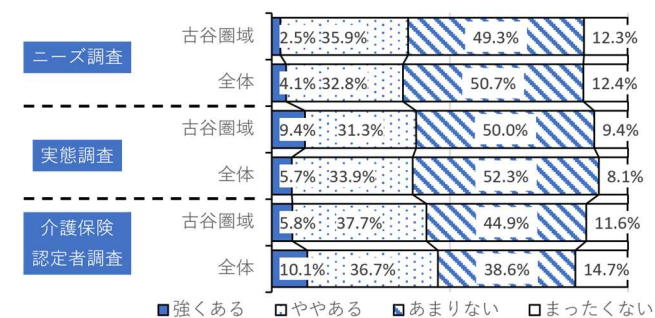
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。市全体と比べて、運動器機能リスク9.7ポイント、うつ傾向の割合が10.0ポイント低くなっています。前回調査と比較すると、咀嚼機能リスクの割合の上昇(7.2ポイント)が目立ちました。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性(令和5年4月1日時点)

- ・ 農村地域であり、同居の割合が多い。
- ・ 住民の移動手段の多くは、自家用車である。
- ・ 地区内に市民センターがあり、自治会、地区社協、民生委員協議会定例会等は市民センターを中心に開催されている。昔からのつながりを大切にしており、人とのつながりが強い。
- ・ スポーツ関係では、サンライフ、農業ふれあいセンター、総合運動公園など近くに体育館のような施設がある。
- ・ 古谷地区の人口の28.59%の方が住むグリーンパークがあり、その高齢化率は、46.79%である。
- ・ ボランティア活動として、グリーンパークの助け合いがある。
- ・ 自主グループは、6か所全てで活動中である。※教育センターに3か所あり。
- ・ 病院が3つ、医院・クリニックが2つあり。

南古谷

南古谷支会

■地域包括支援センター

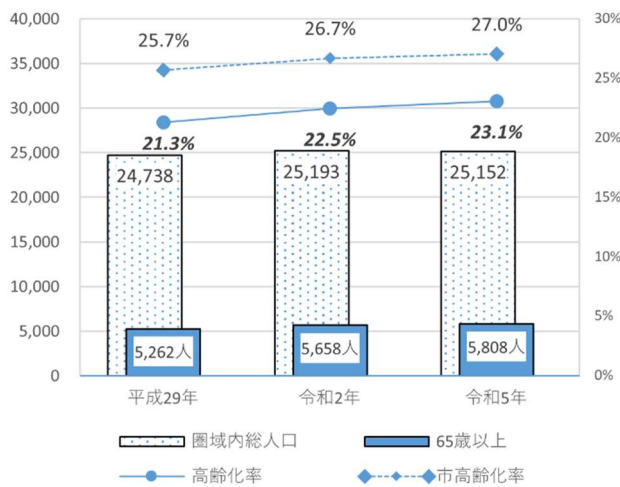
ひがし(並木新町 2-5 桜ビル2階)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の南古谷の総人口は25,152人、そのうち65歳以上の人口は5,808人となっており、高齢化率は23.1%です。

南古谷の高齢化率は市内で最も低く、市全体の高齢化率を3.9ポイント下回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	25,152人	12,644人	12,508人
高齢者数	5,808人	2,624人	3,184人
65~74歳	2,687人	1,265人	1,422人
75~84歳	2,402人	1,090人	1,312人
85歳以上	719人	269人	450人
高齢化率	23.1%	20.8%	25.5%
総世帯数	10,913世帯		
高齢者のみの世帯数	2,643世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	1,427世帯		
高齢者夫婦の世帯	1,163世帯		
その他の高齢者のみの世帯	53世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて414人増加しており、65歳以上の人口は546人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて1.8ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の南古谷の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は968人、認定率は16.7%であり、市全体の認定率を1.2ポイント下回っています。

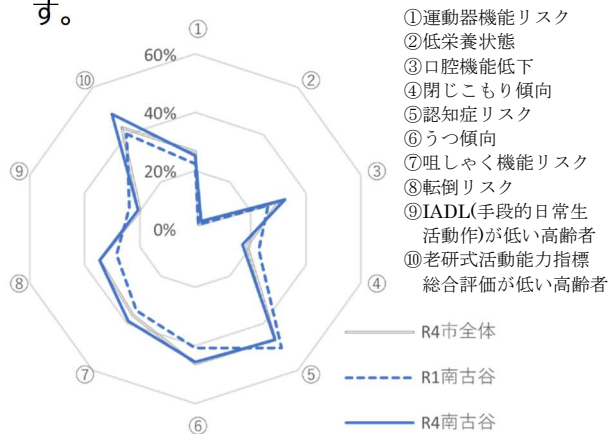
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は519人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

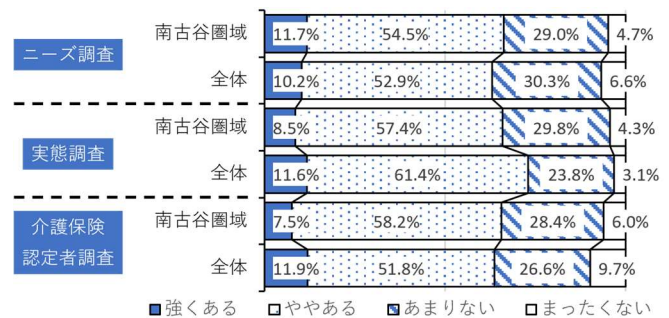
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	114人	自立	214人
要支援2	118人	I	225人
要介護1	227人	Ⅱa	77人
要介護2	167人	Ⅱb	199人
要介護3	141人	Ⅲa	181人
要介護4	125人	Ⅲb	29人
要介護5	76人	Ⅳ	32人
合計	968人	M	1人
認定率	16.7%	Ⅱ以上合計	519人

3 高齢者等実態調査結果

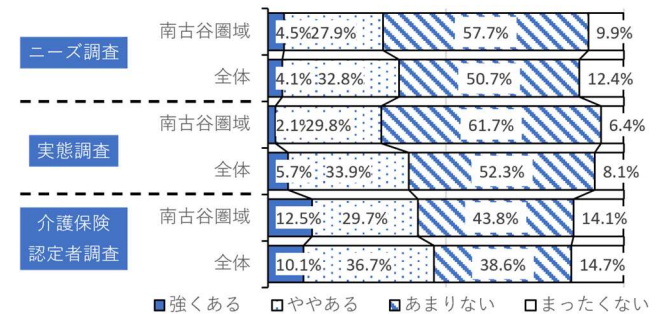
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。前回調査時から7項目で割合が上昇しましたが、市全体との差は、9項目で3ポイント未満となっています。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性 (令和5年4月1日時点)

- ・ 近年新たに越してきた住民も多く、一戸建ての団地では高齢の同年代が多い、高齢者のみ世帯が増えている
- ・ 大型スーパー、映画館、スポーツジムがあり、活性化している場所がある一方で、コンビニも近づくになく、買い物に困っている地域もある。
- ・ 住民の移動手段の多くは自家用車である。
- ・ 地区内に市民センターがあり、自治会、地区社協、民生委員協議会定例会等は市民センターを中心に開催されている。昔からのつながりを大切にしており、人とのつながりが強いように感じる。
- ・ 自主グループ15か所中、13か所が活動中である。
- ・ ボランティア活動として、こども食堂、子育てカフェなど子育て支援が活発である。
- ・ 病院が1つ、医院・クリニックが5つある。

高階

高階支会

■地域包括支援センター

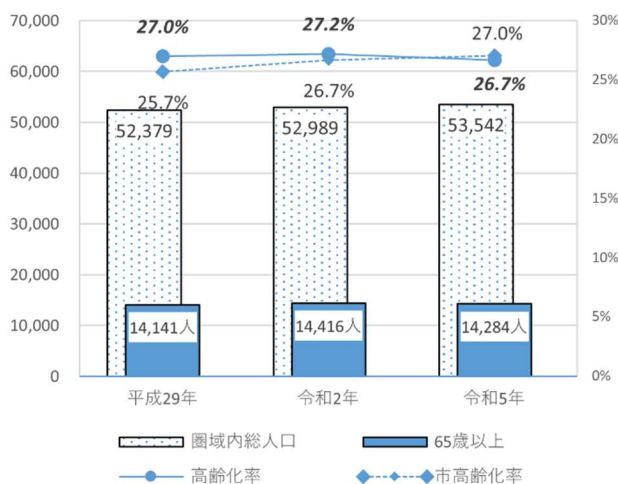
たかしな(砂新田 4-1-4)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の高階の総人口は53,542人、そのうち65歳以上の人口は14,284人となっており、高齢化率は26.7%です。

高階の高齢化率は市内で8番目に高く、市全体の高齢化率を0.3ポイント下回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	53,542人	26,690人	26,852人
高齢者数	14,284人	6,304人	7,980人
65～74歳	5,887人	2,796人	3,091人
75～84歳	6,302人	2,720人	3,582人
85歳以上	2,095人	788人	1,307人
高齢化率	26.7%	23.6%	29.7%
総世帯数	26,082世帯		
高齢者のみの世帯数	6,867世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	4,053世帯		
高齢者夫婦の世帯	2,714世帯		
その他の高齢者のみの世帯	100世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて1,163人増加しており、65歳以上の人口は143人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて0.3ポイント減少しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の高階の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は2,580人、認定率は18.1%であり、市全体の認定率を0.2ポイント上回っています。

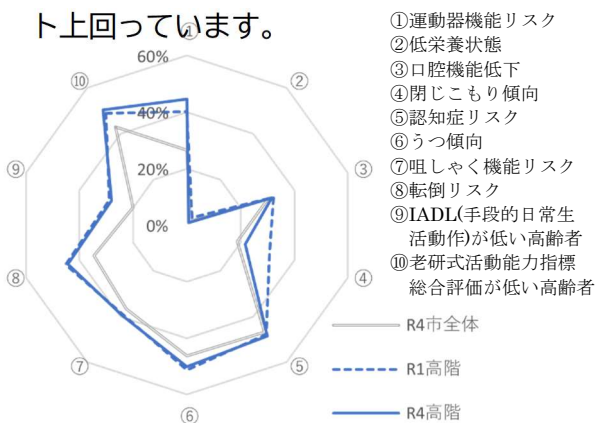
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は1,514人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

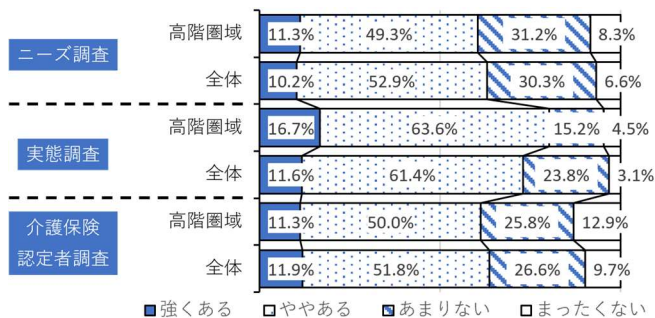
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	347人	自立	468人
要支援2	282人	I	575人
要介護1	600人	Ⅱa	202人
要介護2	412人	Ⅱb	582人
要介護3	400人	Ⅲa	503人
要介護4	346人	Ⅲb	105人
要介護5	193人	Ⅳ	115人
合計	2,580人	M	7人
認定率	18.1%	Ⅱ以上合計	1,514人

3 高齢者等実態調査結果

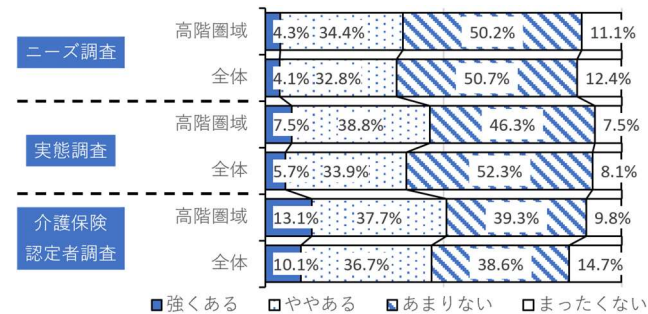
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。閉じこもり傾向の割合は 21.7%で、前回調査時から 9.2 ポイントの減少がみられました。運動器機能リスクありの割合は、市全体を 18.1 ポイント上回っています。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性 (令和5年4月1日時点)

- ・ 圏域内の人口は、小さな市程度の人口を擁している。
- ・ ひとり暮らし高齢者の割合が多い。
- ・ 住民の最寄り駅には圏域内の新河岸駅とふじみ野市の上福岡駅が利用されており、日常生活圏域が上福岡駅周辺という住民も少なからずいる。
- ・ 圏域内は起伏があるため、その高低差と勾配が高齢者の外出には障害の一つとなっている。バス等の交通整備、活動参加のために公民館や買い物への道のりが険しい(道が狭い、急坂がある)。
- ・ 21か所の自主グループはコロナ禍もあり休止から解散したグループもあったが、新規立ち上げ支援で21か所は変わっていない。活動再開している自主グループは8か所である。

福原

福原支会

■地域包括支援センター

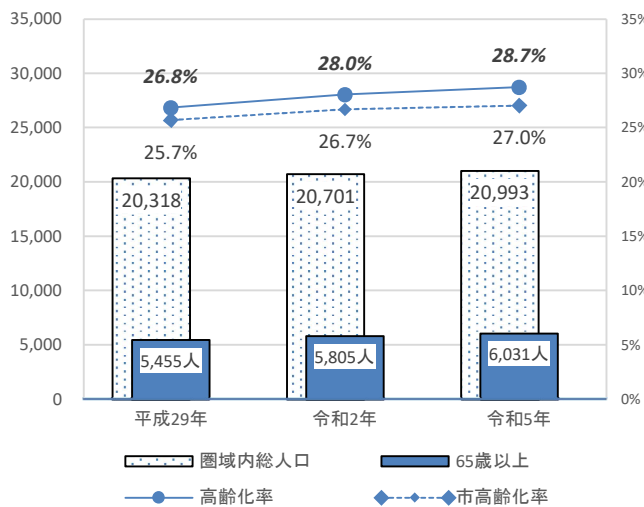
みなみ(中台南 1-19-4)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の福原の総人口は20,993人、そのうち65歳以上の人口は6,031人となっており、高齢化率は28.7%です。

福原の高齢化率は市内で4番目に高く、市全体の高齢化率を1.7ポイント上回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	20,993人	10,572人	10,421人
高齢者数	6,031人	2,724人	3,307人
65～74歳	2,721人	1,300人	1,421人
75～84歳	2,528人	1,136人	1,392人
85歳以上	782人	288人	494人
高齢化率	28.7%	25.8%	31.7%
総世帯数	9,111世帯		
高齢者のみの世帯数	2,662世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	1,483世帯		
高齢者夫婦の世帯	1,137世帯		
その他の高齢者のみの世帯	42世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて675人増加しており、65歳以上の人口は576人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて1.9ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の福原の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は981人、認定率は16.3%であり、市全体の認定率を1.6ポイント下回っています。

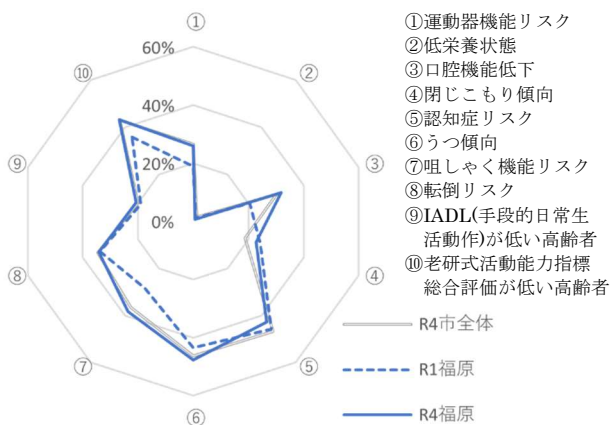
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は584人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

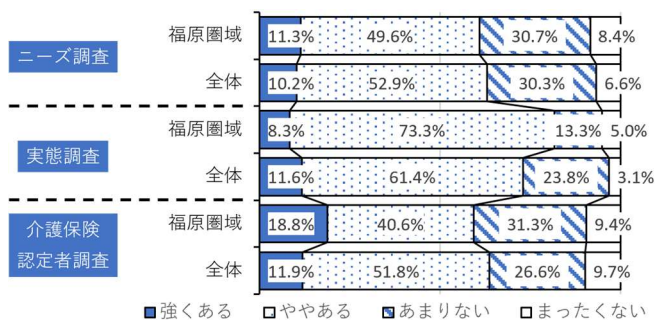
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	109人	自立	169人
要支援2	105人	I	219人
要介護1	257人	Ⅱa	87人
要介護2	141人	Ⅱb	227人
要介護3	159人	Ⅲa	188人
要介護4	137人	Ⅲb	41人
要介護5	73人	Ⅳ	37人
合計	981人	M	4人
認定率	16.3%	Ⅱ以上合計	584人

3 高齢者等実態調査結果

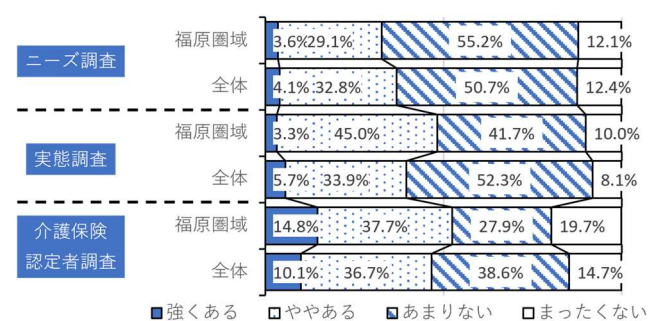
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。前回調査から7項目で割合が上昇し、中でも口腔機能(11.5ポイント)と、咀嚼機能(10.0ポイント)のリスク割合の上昇が目立ちました。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性 (令和5年4月1日時点)

- ・ 農村地帯の広がる緑豊かな地域や、新興住宅が立ち並ぶ住宅街がある。
- ・ 40年前に新興住宅地域は、高齢化率30~40%を抱え、ひとり暮らし高齢者も多い。
- ・ 高齢化により、自治会加入率も低下傾向である。
- ・ 農村地帯は、隣近所の助け合い、農家ならではの繋がりがあのように感じる。

大東

大東支会

■地域包括支援センター

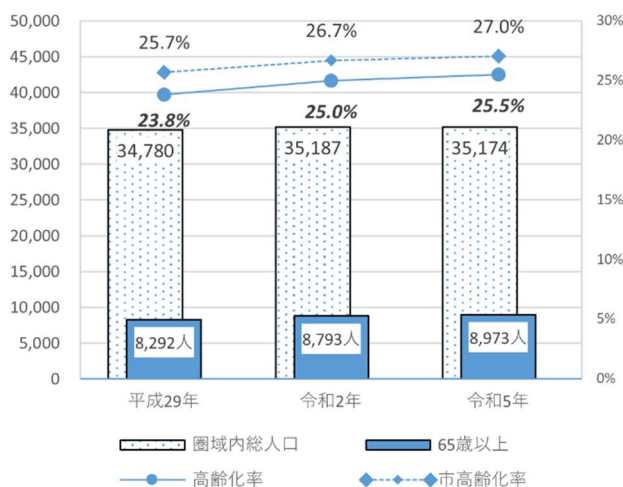
だいとう(南台 2-11-4)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の大東の総人口は35,174人、そのうち65歳以上の人口は8,973人となっており、高齢化率は25.5%です。

大東の高齢化率は市内で4番目に低く、市全体の高齢化率を1.5ポイント下回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	35,174人	17,720人	17,454人
高齢者数	8,973人	4,088人	4,885人
65~74歳	4,173人	2,015人	2,158人
75~84歳	3,584人	1,637人	1,947人
85歳以上	1,216人	436人	780人
高齢化率	25.5%	23.1%	28.0%
総世帯数	15,947世帯		
高齢者のみの世帯数	4,072世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	2,280世帯		
高齢者夫婦の世帯	1,724世帯		
その他の高齢者のみの世帯	68世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて394人増加しており、65歳以上の人口は681人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて1.7ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の大東の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は1,479人、認定率は16.5%であり、市全体の認定率を1.4ポイント下回っています。

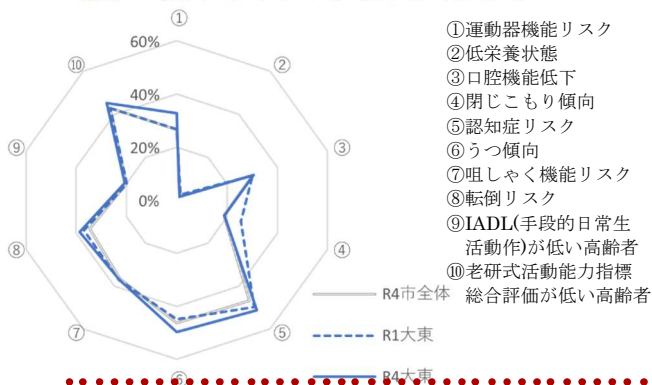
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は828人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

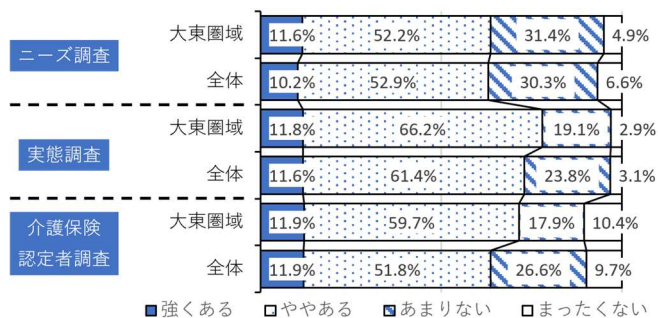
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	182人	自立	290人
要支援2	153人	I	334人
要介護1	359人	Ⅱa	140人
要介護2	252人	Ⅱb	320人
要介護3	219人	Ⅲa	260人
要介護4	202人	Ⅲb	40人
要介護5	112人	Ⅳ	64人
合計	1,479人	M	4人
認定率	16.5%	Ⅱ以上合計	828人

3 高齢者等実態調査結果

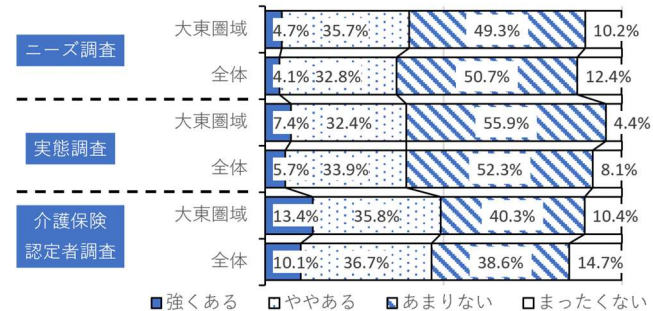
介護予防・日常生活圏ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。低栄養状態リスク以外は、市全体の割合を上回っています。前回調査と比較すると、運動器機能リスクの上昇（6.0ポイント）と閉じこもり傾向の減少（6.7ポイント）が目立ちました。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性 (令和5年4月1日時点)

- ・ 圏域内を国道16号が通り、関越自動車道川越インターチェンジ、西武新宿線南大塚駅があり、車・人の流れが多い地域である。駅周辺には、スーパーやドラッグストア、クリニック等が並び、高齢者の人出も多い。
- ・ 大東地区は、川越市全体に比べ高齢化率は低いが、市営住宅や古くからの住宅団地も多く、40%を超える高齢化率の自治会も複数ある。一方で、農地が広がる地域では、宅地化も進み、若い世代も流入し高齢化率は低くなっている。駅周辺や国道沿いにはマンションが多く、利便性を求めて転居してきた世帯の高齢化や単身化が進んでおり相談も増えている。
- ・ 川越市地域包括支援センターだいとうは駅や商店近くの立地であり、出掛けたついでに立ち寄ってくれる人も多く、来所相談が多い。
- ・ 大東地区の自主グループは、コロナ禍により長い活動休止の間に代表者の体調不良や、施設の地域活動スペースが利用出来ないなどの問題で活動再開出来ないグループも複数あった。
- ・ 南大塚駅を挟んで北に大東市民センター(大東公民館)、南に大東南公民館があり、地域活動の拠点となっている。
- ・ スポーツや文化振興、子育て・学習支援など地域活動は多世代に渡り盛んに行われている。

霞ヶ関

霞ヶ関支会

■地域包括支援センター

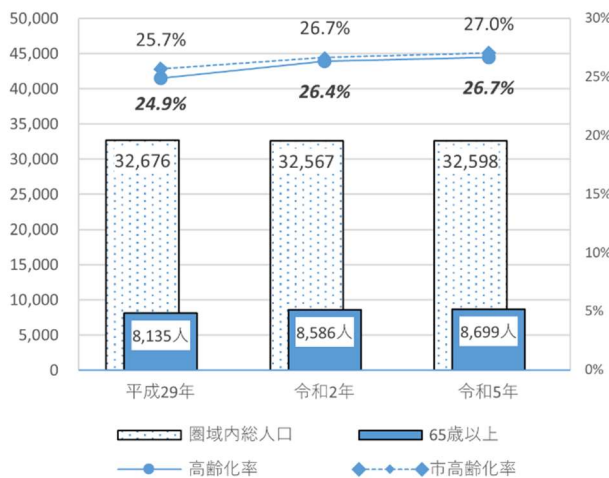
かすみ(かすみ野 2-1-14)



1 人口

令和5（2023）年4月1日時点の霞ヶ関の総人口は32,598人、そのうち65歳以上の人口は8,688人となっており、高齢化率は26.7%です。

霞ヶ関の高齢化率は市内で8番目に高く、市全体の高齢化率を0.3ポイント下回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	32,598人	16,336人	16,262人
高齢者数	8,699人	3,907人	4,792人
65～74歳	3,804人	1,776人	2,028人
75～84歳	3,665人	1,632人	2,033人
85歳以上	1,230人	499人	731人
高齢化率	26.7%	23.9%	29.5%
総世帯数	14,615世帯		
高齢者のみの世帯数	3,877世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	2,069世帯		
高齢者夫婦の世帯	1,760世帯		
その他の高齢者のみの世帯	48世帯		

圏域内人口については、平成29（2017）年から令和5（2023）年にかけて78人減少しているものの、65歳以上の人口は564人増加しています。高齢化率は平成29（2017）年から令和5（2023）年にかけて1.8ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5（2023）年4月1日時点の霞ヶ関の要支援・要介護認定者数（第1号被保険者）は1,520人、認定率は17.5%であり、市全体の認定率を0.4ポイント下回っています。

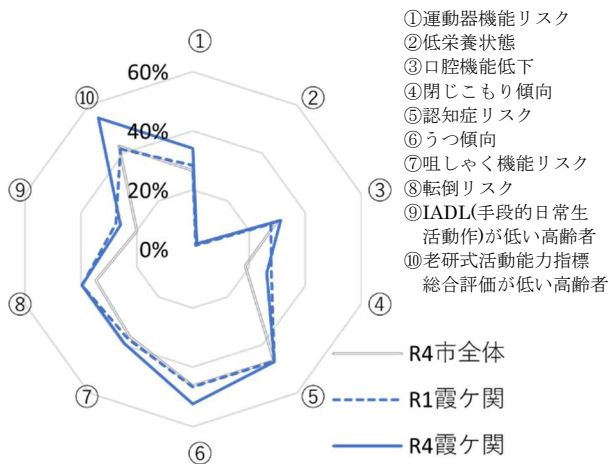
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者（日常生活自立度Ⅱ以上）は860人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

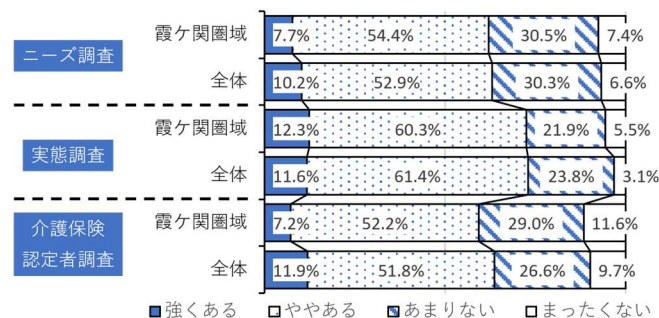
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	216人	自立	296人
要支援2	169人	I	347人
要介護1	363人	Ⅱa	115人
要介護2	236人	Ⅱb	347人
要介護3	216人	Ⅲa	286人
要介護4	204人	Ⅲb	45人
要介護5	116人	Ⅳ	66人
合計	1,520人	M	1人
認定率	17.5%	Ⅱ以上合計	860人

3 高齢者等実態調査結果

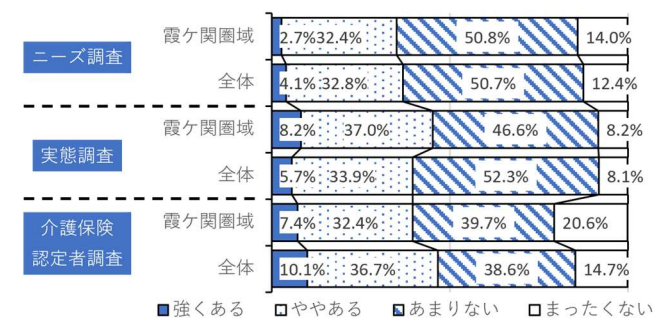
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。前回調査と比べて8項目で割合が上昇し、すべての項目で市全体を上回っています。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性(令和5年4月1日時点)

- ・ 住宅地が駅から離れている環境である地区が多い。
- ・ 高齢化が進んでおり、1970～80年代に開発された集合住宅団地や戸建ての住宅団地では、高齢化率が50%を超えている地区もある。
- ・ 高齢者の6割以上が高齢者のみ世帯で、その半数近くが単身世帯である。
- ・ 自治体ごとに助けあいの会など、互助システムを作っているが、担い手が高齢になっている。
- ・ 新興住宅地が各地にあり、若い世帯が増えてもいるが、地域交流の機会は減り、住民同士の繋がりが弱くなっているように感じる。
- ・ 徒歩で買い物や通院ができず、かつ、公共交通機関の活用もしにくい地域がある。
- ・ 地域活動を少しずつ再開する動きが出てきている。
- ・ 霞ヶ関西公民館を使って行われているサークル活動が少ない。

霞ヶ関北

霞ヶ関北支会

■地域包括支援センター

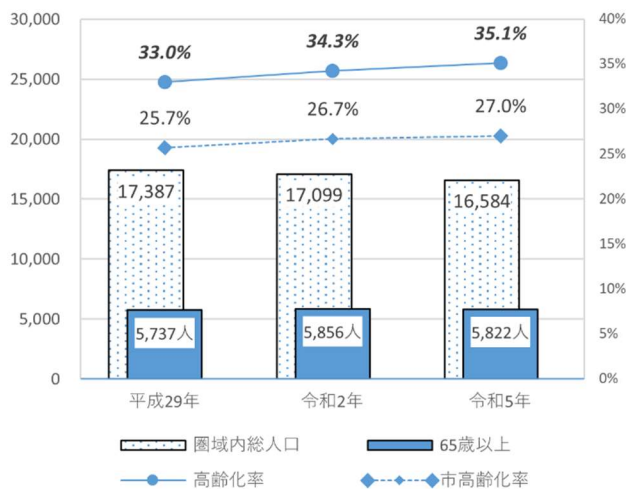
にし(大字吉田 204-2)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の霞ヶ関北の総人口は16,584人、そのうち65歳以上の人口は5,822人となっており、高齢化率は35.1%です。

霞ヶ関北の高齢化率は市内で3番目に高く、市全体の高齢化率を8.1ポイント上回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	16,584人	7,968人	8,616人
高齢者数	5,822人	2,559人	3,263人
65～74歳	2,301人	1,077人	1,224人
75～84歳	2,392人	998人	1,394人
85歳以上	1,129人	484人	645人
高齢化率	35.1%	32.1%	37.9%
総世帯数	8,155世帯		
高齢者のみの世帯数	2,704世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	1,380世帯		
高齢者夫婦の世帯	1,277世帯		
その他の高齢者のみの世帯	47世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて803人減少しているものの、65歳以上の人口は85人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて2.1ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の霞ヶ関北の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は1,174人、認定率は20.2%であり、市全体の認定率を2.3ポイント上回っています。

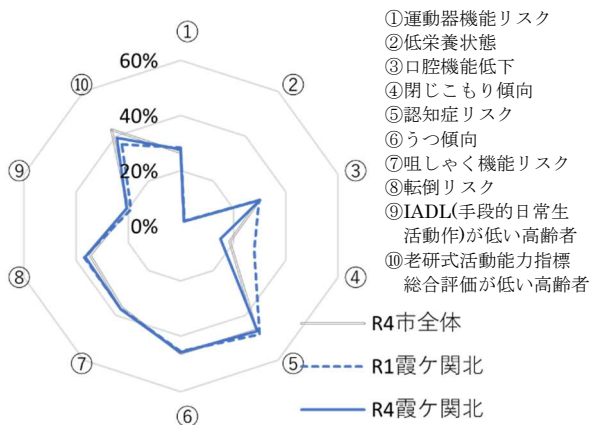
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は617人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

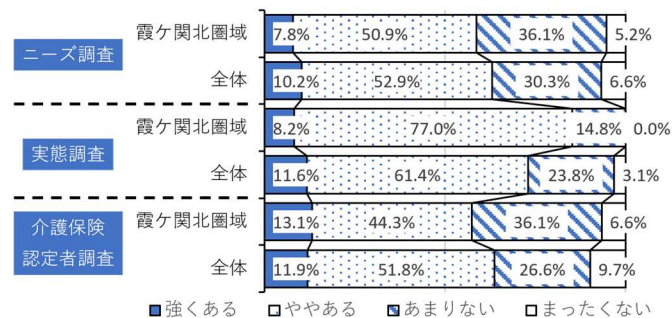
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	186人	自立	263人
要支援2	162人	I	283人
要介護1	275人	Ⅱa	87人
要介護2	166人	Ⅱb	213人
要介護3	148人	Ⅲa	222人
要介護4	141人	Ⅲb	46人
要介護5	96人	Ⅳ	48人
合計	1,174人	M	1人
認定率	20.2%	Ⅱ以上合計	617人

3 高齢者等実態調査結果

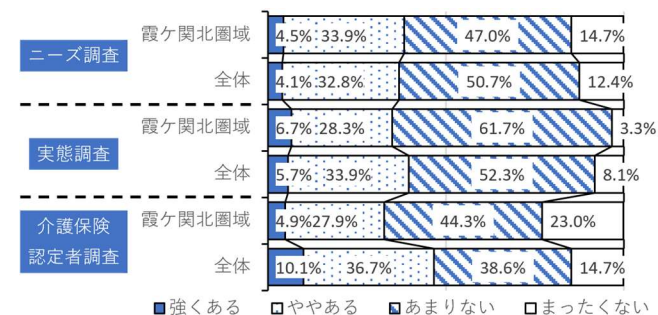
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。閉じこもり傾向の割合について、前回調査時から 12.7 ポイントと減少が見られました。市全体との差は、8項目で2ポイント未満となっています。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性 (令和5年4月1日時点)

- ・ 昭和40年代に一気に宅地開発が進められ同年代の世帯が一斉に転入してきた地域である。
- ・ 東武東上線霞ヶ関駅から伊勢原町方面にスーパーや小売店、金融機関、一般医療機関が集まる一大商店街を形成したが、現在は空き店舗が増えてきている。
- ・ 同世代の転入者が多かったことから年齢を重ねるにつれ抱える問題も似た傾向にある。中でも高齢化に対する住民の関心が高く、自治会や老人会、地区社協が中心となり高齢者支援に取り組まれている。
- ・ 霞ヶ関北自治会では、「かほく見守りネット」や「かほくお手伝いサービス」といった互助を活かすものから、「QRコード※を使った見守り」にも積極的である。※QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商品である。
- ・ 自治会に属さず近所付き合いもしない方も多くなっている。

名細

名細支会

■地域包括支援センター

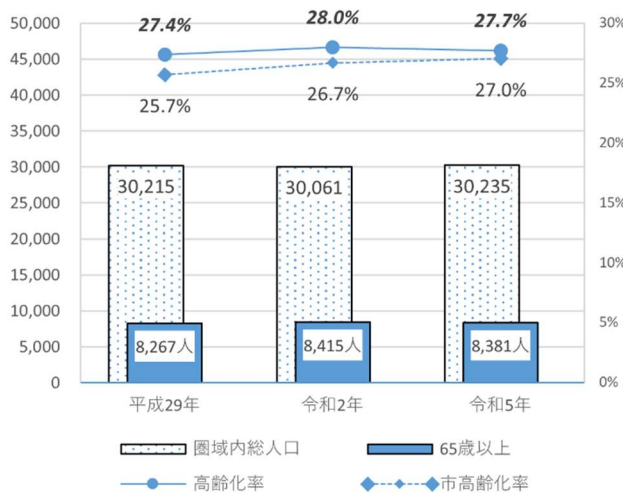
にし(大字吉田 204-2)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の名細の総人口は30,235人、そのうち65歳以上の人口は8,381人となっており、高齢化率は27.7%です。

名細の高齢化率は市内で6番目に高く、市全体の高齢化率を0.7ポイント上回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	30,235人	15,243人	14,992人
高齢者数	8,381人	3,745人	4,636人
65～74歳	3,416人	1,594人	1,822人
75～84歳	3,748人	1,688人	2,060人
85歳以上	1,217人	463人	754人
高齢化率	27.7%	24.6%	30.9%
総世帯数	14,160世帯		
高齢者のみの世帯数	3,798世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	2,034世帯		
高齢者夫婦の世帯	1,703世帯		
その他の高齢者のみの世帯	61世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて20人増加しており、65歳以上の人口は114人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて0.3ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の名細の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は1,480人、認定率は17.7%であり、市全体の認定率を0.2ポイント下回っています。

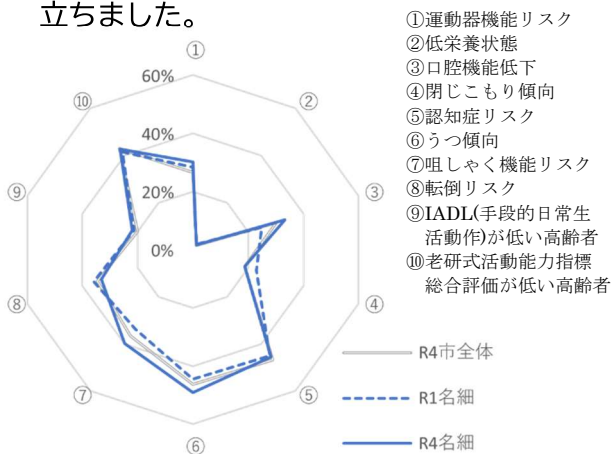
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は813人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

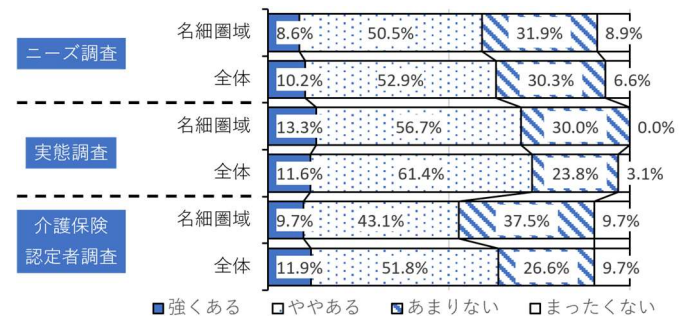
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	213人	自立	299人
要支援2	181人	I	354人
要介護1	367人	Ⅱa	103人
要介護2	208人	Ⅱb	343人
要介護3	220人	Ⅲa	265人
要介護4	163人	Ⅲb	43人
要介護5	128人	Ⅳ	52人
合計	1,480人	M	7人
認定率	17.7%	Ⅱ以上合計	813人

3 高齢者等実態調査結果

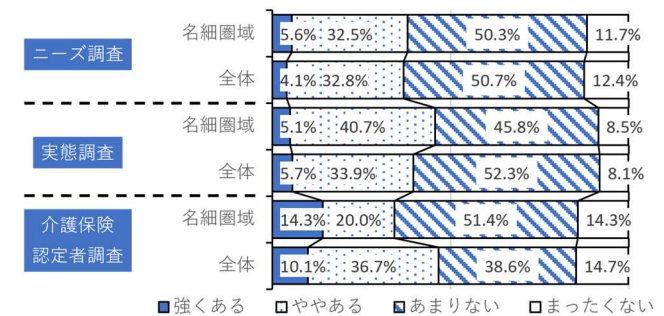
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。前回調査と比較して、口腔機能（8.3ポイント）と咀嚼機能（6.2ポイント）のリスク割合の上昇が目立ちました。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性 (令和5年4月1日時点)

- ・ 地元で昔から長く同じ場所で暮らす農村地帯と、新規に開発された地域からなる。また、混在している地域もある。
- ・ 霞ヶ関駅と鶴ヶ島駅に挟まれた区域を中心にスーパーマーケットや小売店、飲食店がありバス等の利便性も高いものの、少し離れると途端に店舗も減り、公共交通機関の活用がしにくい地域があるなど、利便性に偏りがみられる。
- ・ 地域の活動では、伝統芸能の継承や地区単位でのイベントがあり世代間交流のきっかけともなっている。また、民生委員や自治会役員に活発な高齢者が多く、ふれあいサロン、自主グループ、助け合いの会の運営などが自治会毎に活発に進められている。他、上戸小学校区をモデルに家事支援サービスを発足させるなど、互助の意識が高いことが挙げられる。
- ・ しかし、コロナ禍以降、地域の祭事をはじめ、サロンや自主グループ活動などほとんどの活動が停止している。衰えてしまった地域の再活性のため、各自治会単位で催し物の再開計画が進んでいる。また、それに呼応するように高齢者の様々な活動にも再開の兆しが見え始めている。

山田

山田支会

■地域包括支援センター

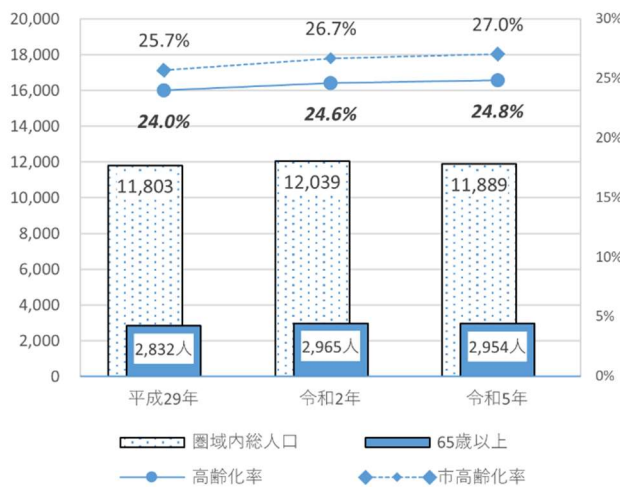
きた(石原町 1-27-7)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の山田の総人口は11,889人、そのうち65歳以上の人口は2,954人となっており、高齢化率は24.8%です。

山田の高齢化率は市内で3番目に低く、市全体の高齢化率を2.2ポイント下回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	11,889人	5,969人	5,920人
高齢者数	2,954人	1,338人	1,616人
65～74歳	1,332人	631人	701人
75～84歳	1,247人	573人	674人
85歳以上	375人	134人	241人
高齢化率	24.8%	22.4%	27.3%
総世帯数	5,109世帯		
高齢者のみの世帯数	1,270世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	674世帯		
高齢者夫婦の世帯	573世帯		
その他の高齢者のみの世帯	23世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて86人増加しており、65歳以上の人口は122人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて0.8ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の山田の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は466人、認定率は15.8%であり、市全体の認定率を2.1ポイント下回っています。

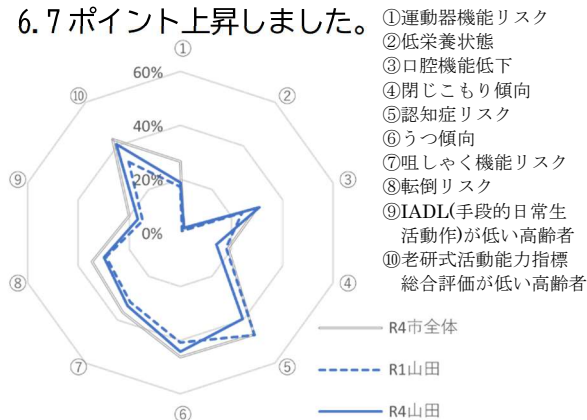
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は283人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

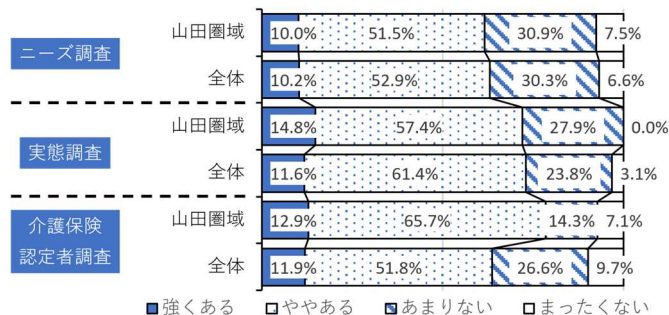
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	49人	自立	83人
要支援2	52人	I	99人
要介護1	101人	Ⅱa	46人
要介護2	64人	Ⅱb	103人
要介護3	78人	Ⅲa	93人
要介護4	75人	Ⅲb	12人
要介護5	47人	Ⅳ	27人
合計	466人	M	2人
認定率	15.8%	Ⅱ以上合計	283人

3 高齢者等実態調査結果

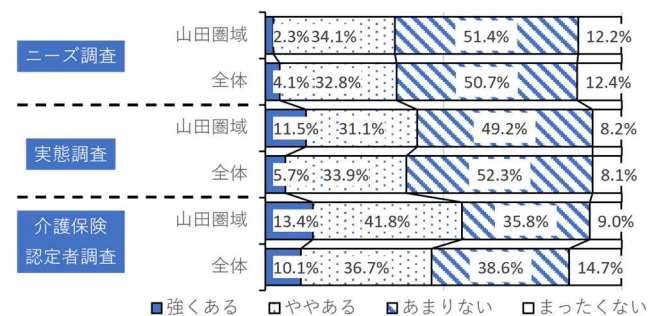
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。8項目で市全体の割合を下回り、特に運動器機能リスクの割合は7.8ポイント下回りました。前回調査時と比べると、口腔機能低下リスクの割合が6.7ポイント上昇しました。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性 (令和5年4月1日時点)

- ・ 農村地域で、戸建住宅が多く、長く住んでいる方と近年新たに越してきた方が混在している。
- ・ 国道254、川越北環状線を挟んで、地区を分断している。
- ・ 長年地域で過ごしてきた住民同士の関係性は強く、自主グループ参加も声かけ等が盛んで活動している。一方で、近年新たに越してきた方は、自治会への加入も消極的である。
- ・ 老人会や民生委員の方のつながりが強い。
- ・ 地区活動は、地区全体が一つ、という考えが強く、横並び状態で活動しているが、コロナ禍で地域毎に活発に実施するところと、慎重に様子を見ていた地域があった。
- ・ 交通手段は、バス、自家用車、バイク等になるが、高齢者は特に自家用車が多い。
- ・ 3世代家族が多い一方で、家族と同居されていても、日中は高齢者だけで過ごしている状態も多い。
- ・ 医療機関は1つである。また、介護事業所、買い物をする場所が少ない。

川鶴

川鶴支会

■地域包括支援センター

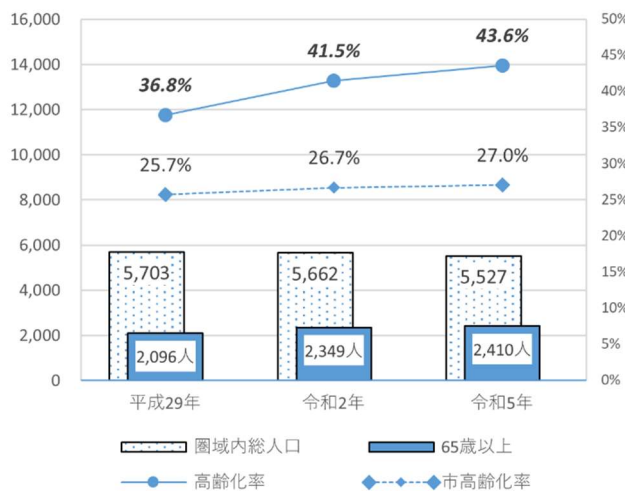
かすみ(かすみ野 2-1-14)



1 人口

令和5(2023)年4月1日時点の川鶴の総人口は5,527人、そのうち65歳以上の人口は2,410人となっており、高齢化率は43.6%です。

川鶴の高齢化率は市内で最も高く、市全体の高齢化率を16.6ポイント上回っています。



区分	全体	男性	女性
人口	5,527人	2,710人	2,817人
高齢者数	2,410人	1,121人	1,289人
65～74歳	1,242人	546人	696人
75～84歳	950人	486人	464人
85歳以上	218人	89人	129人
高齢化率	43.6%	41.4%	45.8%
総世帯数	2,598世帯		
高齢者のみの世帯数	1,073世帯		
ひとり暮らし高齢者の世帯	423世帯		
高齢者夫婦の世帯	638世帯		
その他の高齢者のみの世帯	12世帯		

圏域内人口については、平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて176人減少しているものの、65歳以上の人口は314人増加しています。高齢化率は平成29(2017)年から令和5(2023)年にかけて6.8ポイント増加しています。

2 要介護認定等の状況

令和5(2023)年4月1日時点の川鶴の要支援・要介護認定者数(第1号被保険者)は309人、認定率は12.8%であり、市全体の認定率を5.1ポイント下回っています。

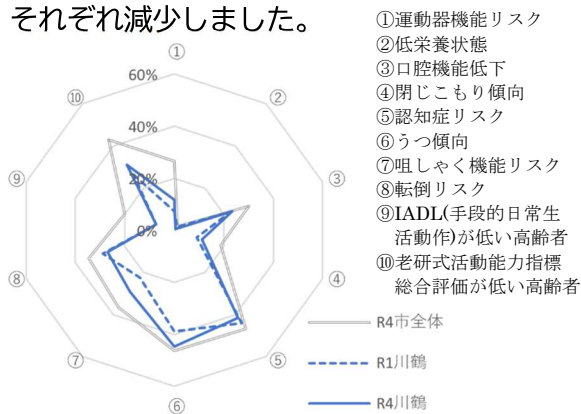
要支援・要介護認定者に占める認知症高齢者(日常生活自立度Ⅱ以上)は175人となっています。

①要支援・要介護認定者数 ②認知症日常生活自立度

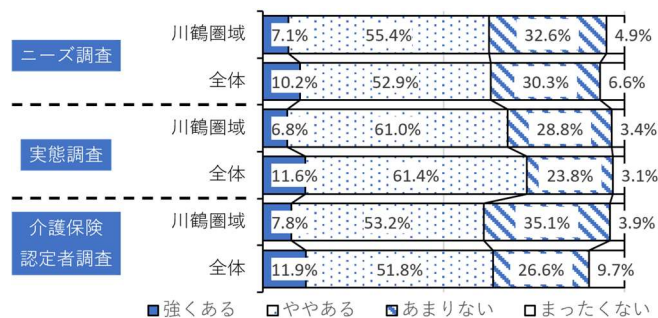
介護度	人数	自立度	人数
要支援1	33人	自立	60人
要支援2	43人	I	70人
要介護1	85人	Ⅱa	27人
要介護2	39人	Ⅱb	66人
要介護3	47人	Ⅲa	54人
要介護4	33人	Ⅲb	10人
要介護5	29人	Ⅳ	18人
合計	309人	M	0人
認定率	12.8%	Ⅱ以上合計	175人

3 高齢者等実態調査結果

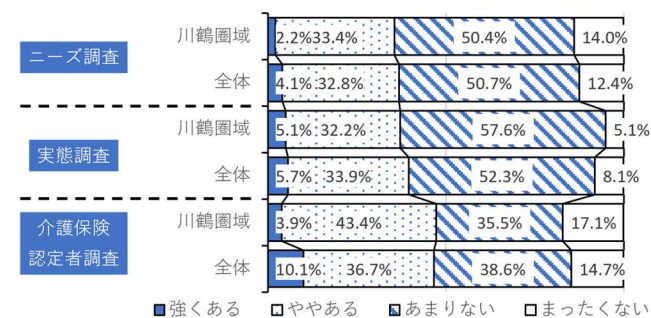
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく各種リスクを有する高齢者の割合は次のとおりです。市全体と比較すると、すべての項目の割合が下回りました。前回調査と比べると、咀嚼機能リスクが6.7ポイント、うつ傾向が5.8ポイント、それぞれ減少しました。



○ 家族以外の地域の人に頼ることへの抵抗



○ 家族以外の地域の人に頼られることへの抵抗



4 地域包括支援センターからみた地域特性 (令和5年4月1日時点)

- ・ 昭和50年代に住宅都市整備公団が開発した団地が2カ所あり、当初から住み続けている人同士のつながりがある。
- ・ 当初から老人会が発足されている。
- ・ 集会所や公民館の活動が活発である。
- ・ 鶴ヶ島駅まで徒歩やバスで行ける地域で、電車やバスで通勤、外出してきた方が多い。
- ・ 駅近くにスポーツクラブが2カ所ある。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査における 圏域別のリスク判定等結果

本市が実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で回答のあった5,373件のうち、対象の設問を回答している人について、日常生活圏域ごとに以下の項目を評価しました。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査における調査項目

1. 運動器機能リスク高齢者の割合
2. 低栄養状態の高齢者の割合
3. 口腔機能が低下している高齢者の割合
4. 閉じこもり傾向の高齢者の割合
5. 認知症リスク高齢者の割合
6. うつ傾向の高齢者の割合
7. 咀嚼機能リスク高齢者の割合
8. 転倒リスク高齢者の割合
9. 老研指標*：IADL*（手段的日常生活動作）が低い高齢者の割合
10. 老研指標：老研式活動能力指標総合評価

*老研指標：東京都老人総合研究所（現東京都健康長寿医療センター研究所）が作成した指標です。

*IADL：食事の支度や預貯金の管理、買い物など、独立して在宅生活を送る上で必要な能力をいいます。

1 運動器機能リスク高齢者の割合

①設問と評価

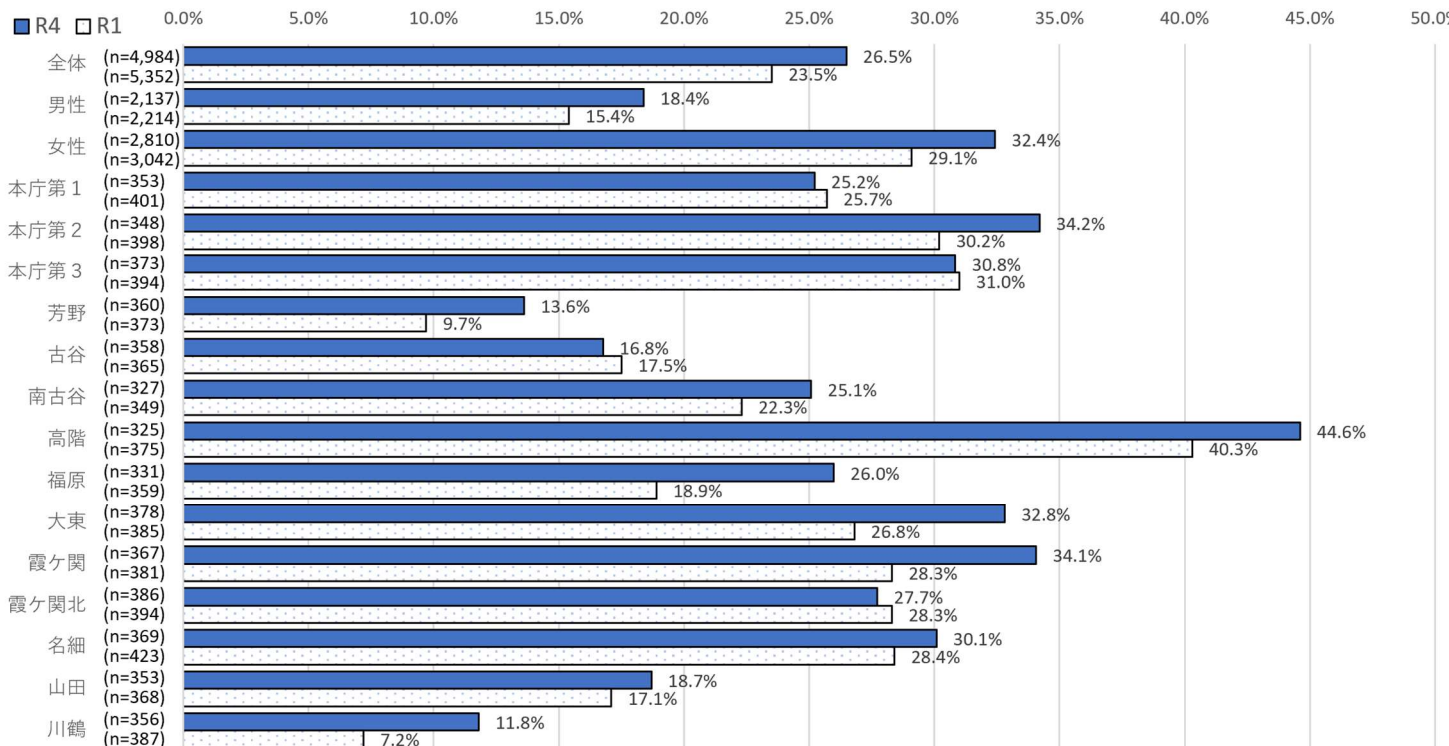
以下の5つの設問のうち3問以上で該当する選択肢を選んでいる場合、運動器機能リスクのある高齢者となります。

設問	調査項目	選択肢	判定
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「できない」	3問以上が該当
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「できない」	
問2(3)	15分位続けて歩いていますか	「できない」	
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」または「1度ある」	
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「とても不安である」または「やや不安である」	

②評価結果

運動器機能リスクのある高齢者の割合は、市全体で26.5%となっています。男女別にみると、女性(32.4%)が男性(18.4%)を14.0ポイント上回っています。

圏域別にみると、高階が44.6%で最も高くなっており、他の圏域を10ポイント以上上回っています。一方、最小は川鶴の11.8%となっています。



2 低栄養状態の高齢者の割合

①設問と評価

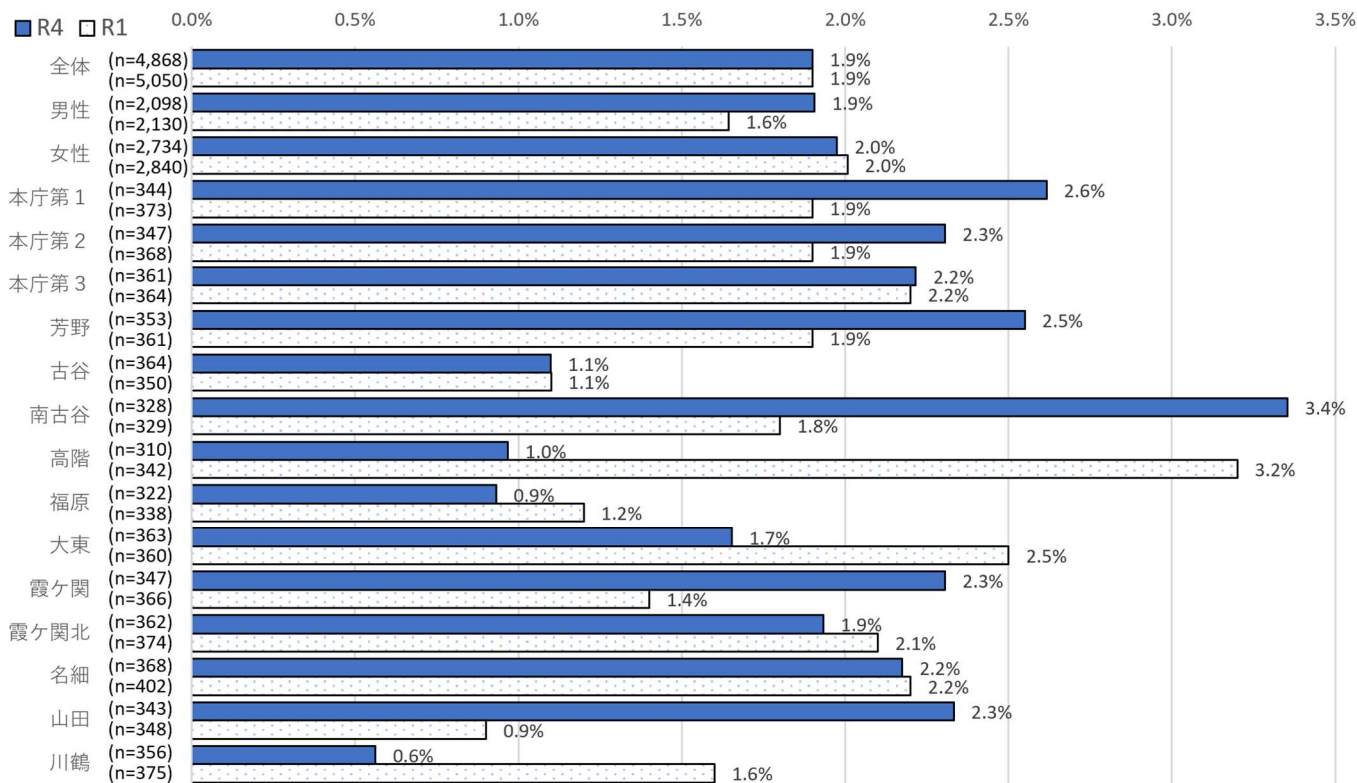
BMI（体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)}）が18.5以下であり、以下の設問で該当する選択肢を選んでいる場合、低栄養状態にある高齢者となります。

設問	調査項目	選択肢	判定
問3(12)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「はい」	左記設問で該当

②評価結果

低栄養状態にある高齢者の割合は、市全体で1.9%となっています。

圏域別にみると、南古谷が3.4%で最も高くなっています。また、各圏域とも4%未満となっています。



3 口腔機能が低下している高齢者の割合

①設問と評価

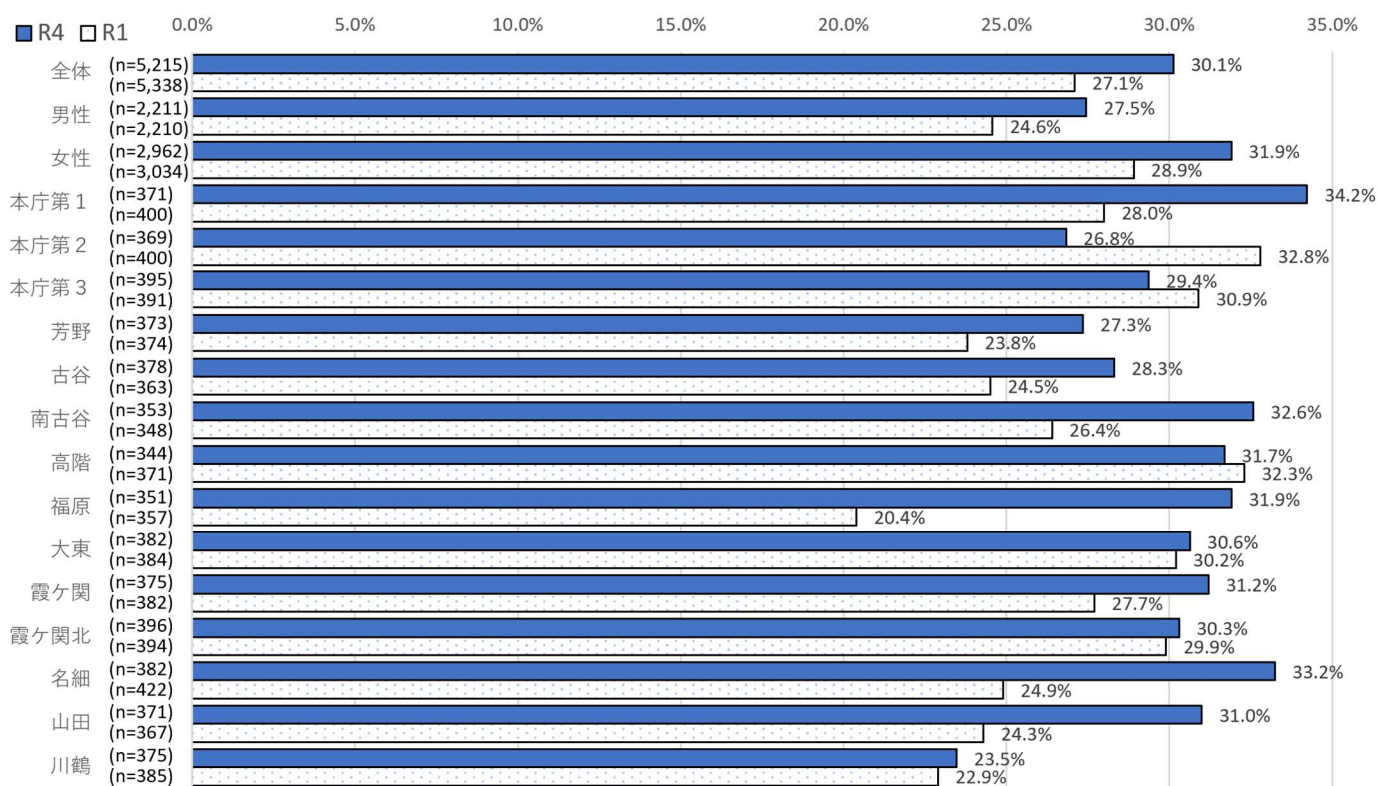
以下の3つの設問のうち2問以上で該当する選択肢を選んでいる場合、口腔機能が低下している高齢者となります。

設問	調査項目	選択肢	判定
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「はい」	2問以上が該当
問3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「はい」	
問3(4)	口の渇きが気になりますか	「はい」	

②評価結果

口腔機能が低下している高齢者の割合は、市全体で30.1%となっています。

圏域別にみると、前回の調査結果では、30%を超えていた圏域は4つでしたが、今回は、9つの圏域で超えています。



4 閉じこもり傾向の高齢者の割合

①設問と評価

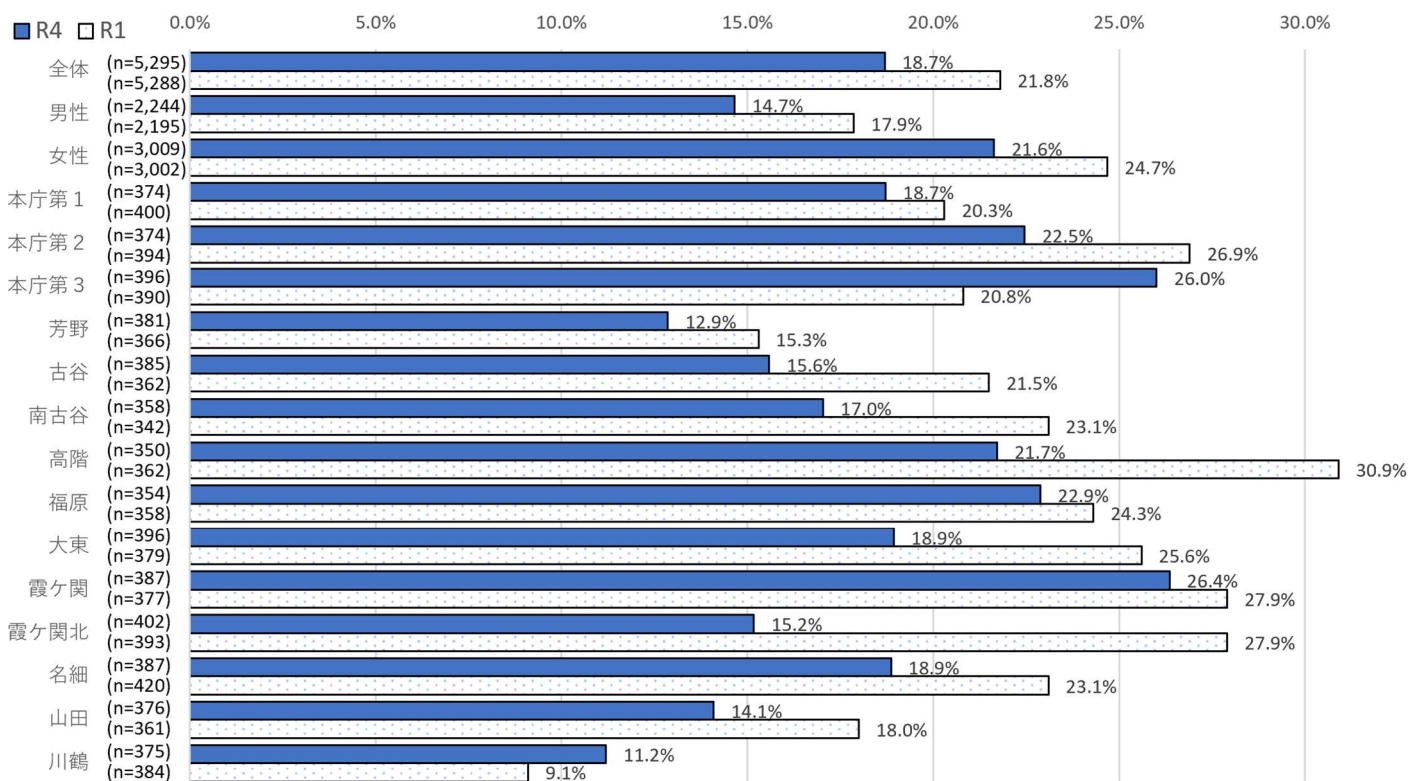
以下の設問で該当する選択肢を選んでいる場合、閉じこもり傾向のある高齢者となります。

設問	調査項目	選択肢	判定
問2(6)	週に1回以上は外出していますか	「ほとんど外出しない」または「週1回」	左記設問で該当

②評価結果

閉じこもり傾向のある高齢者の割合は、市全体で18.7%となっています。男女別にみると、女性（21.6%）が男性（14.7%）を6.9ポイント上回っています。

圏域別にみると、霞ヶ関が26.4%で最も高くなっています。前回の調査と比較して、霞ヶ関北（12.7ポイント）と高階（9.2ポイント）の減少が目立ちました。



5 認知症リスク高齢者の割合

①設問と評価

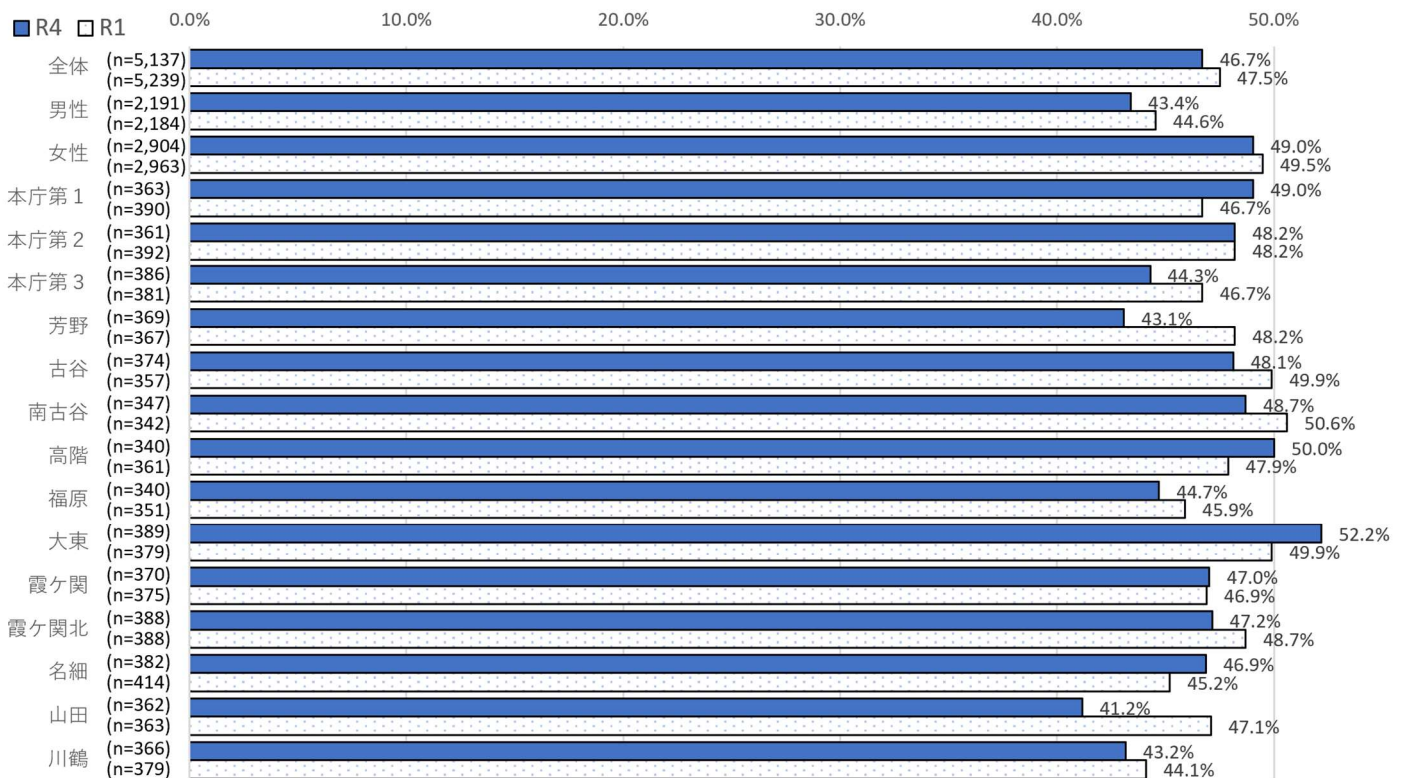
以下の設問で該当する選択肢を選んでいる場合、認知症リスクのある高齢者となります。

設問	調査項目	選択肢	判定
問4(2)	物忘れが多いと感じますか	「はい」	左記設問で該当

②評価結果

認知症リスクのある高齢者の割合は、市全体で 46.7%となっています。

圏域別にみると、最高が大東の 52.2%、最小が山田の 41.2%と、全体がおおむね 40～50%の範囲内となっており、圏域による大きな傾向の違いは見られません。



6 うつ傾向の高齢者の割合

①設問と評価

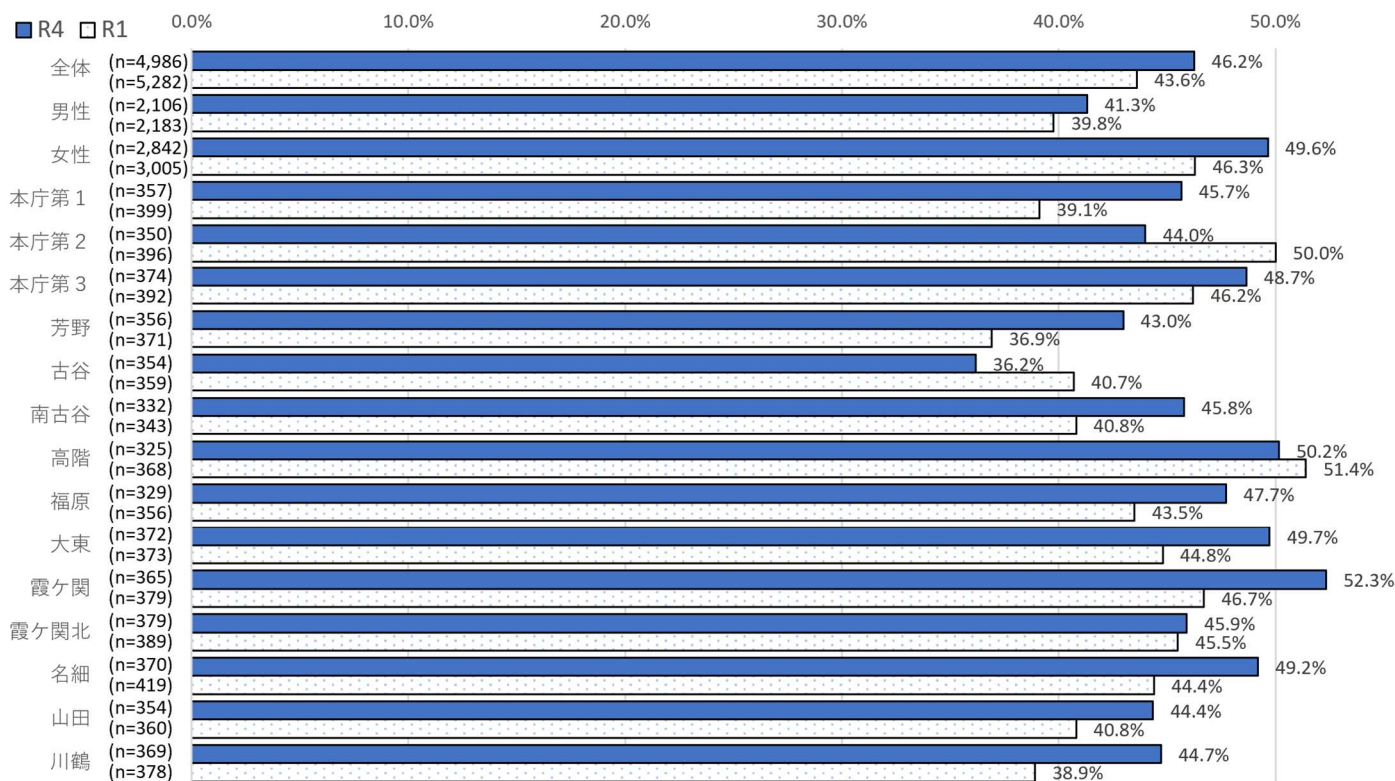
以下の2つの設問のうち1問以上で該当する選択肢を選んでいる場合、うつ傾向のある高齢者となります。

設問	調査項目	選択肢	判定
問7(9)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「はい」	1問以上が該当
問7(10)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「はい」	

②評価結果

うつ傾向のある高齢者の割合は、市全体で46.2%となっています。男女別にみると、女性（49.6%）が男性（41.3%）を8.3ポイント上回っています。

圏域別にみると、50%以上となっているのが霞ヶ関と高階、40%を下回ったのが古谷で、11圏域で前回より上昇しました。



7 咀嚼機能リスク高齢者の割合

①設問と評価

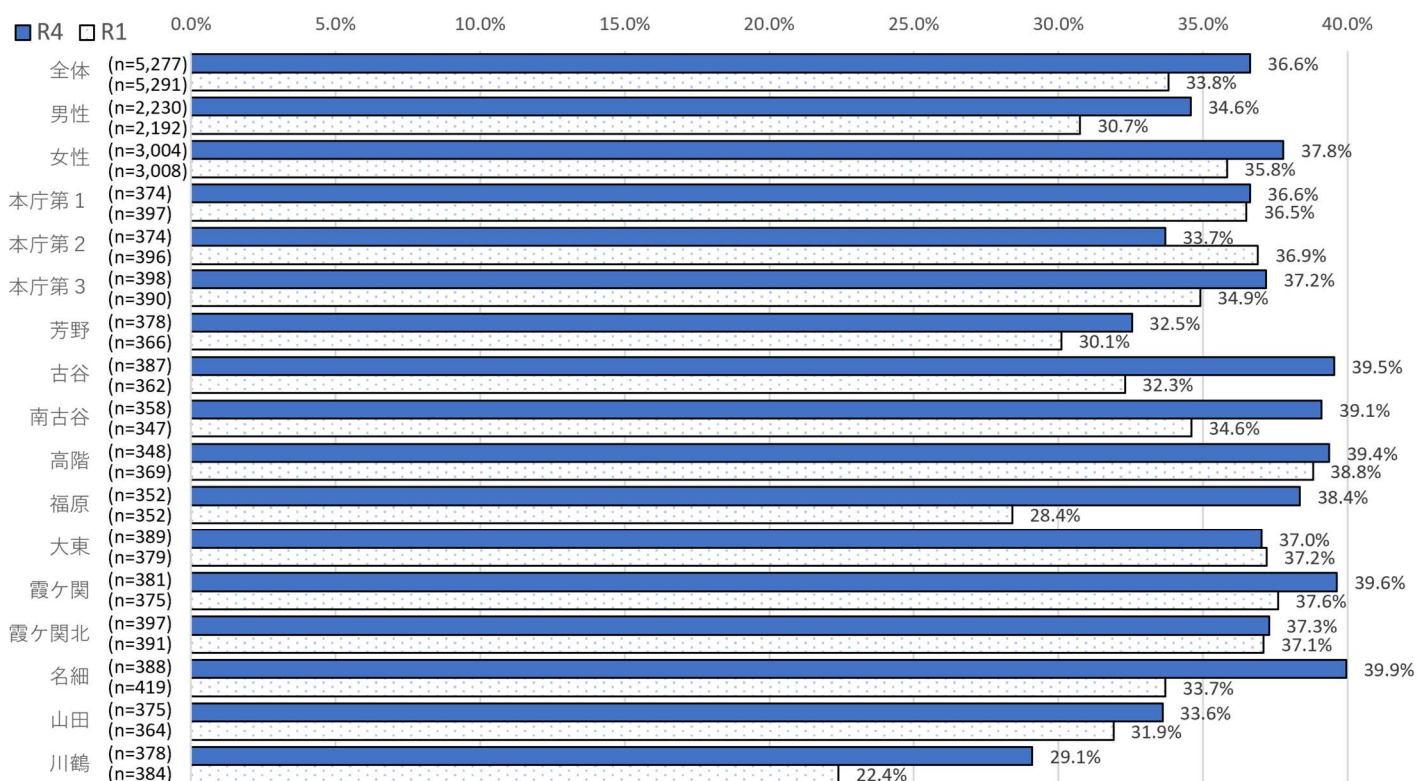
以下の設問で該当する選択肢を選んでいる場合、咀嚼機能リスクのある高齢者となります。

設問	調査項目	選択肢	判定
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「はい」	左記設問で該当

②評価結果

咀嚼機能リスクのある高齢者の割合は、市全体で 36.6%となっています。男女別にみると、女性（37.8%）が男性（34.6%）を 3.2 ポイント上回っています。

圏域別にみると、川鶴（29.1%）以外の圏域では、30%台となっています。



8 転倒リスク高齢者の割合

①設問と評価

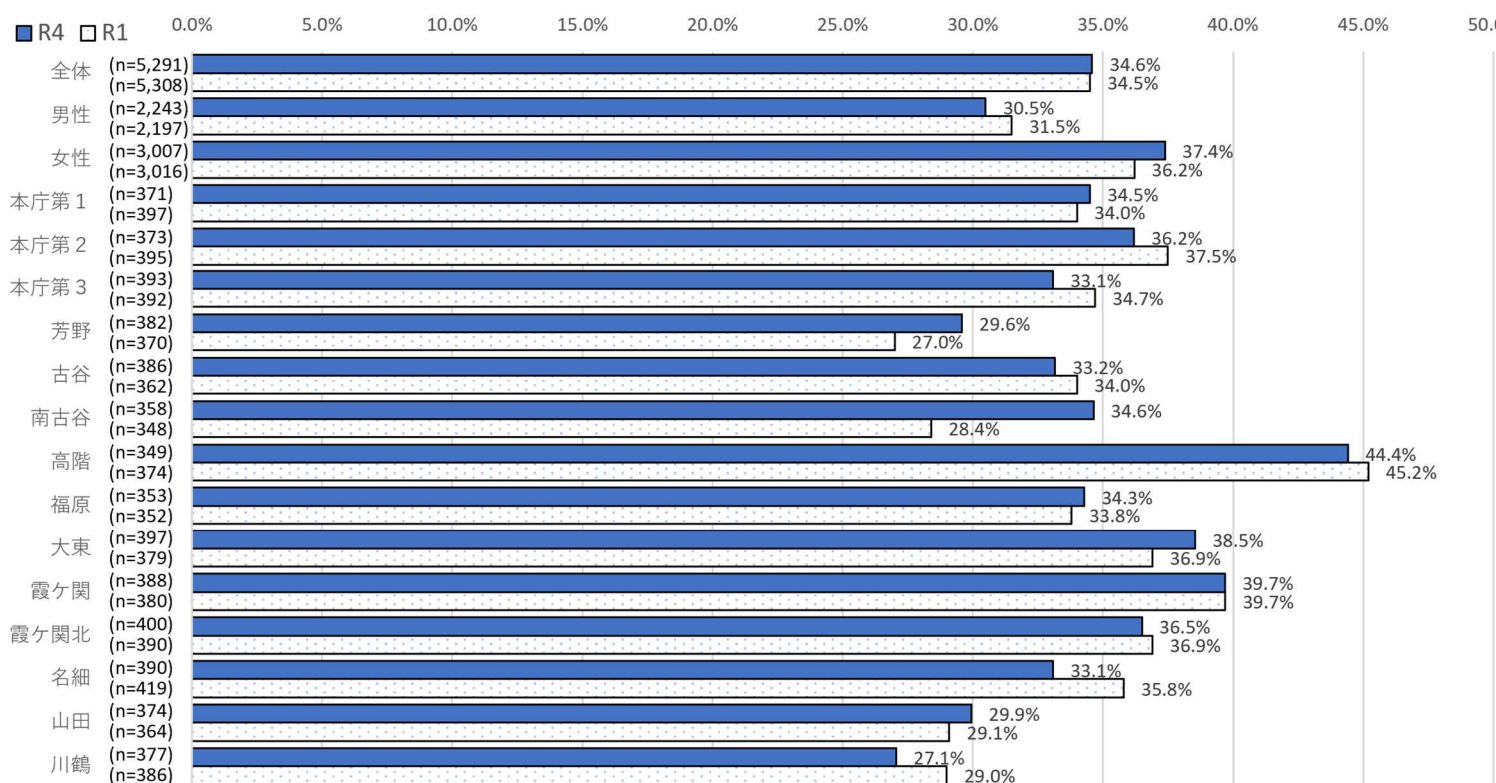
以下の設問で該当する選択肢を選んでいる場合、転倒リスクのある高齢者となります。

設問	調査項目	選択肢	判定
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」または「1度ある」	左記設問で該当

②評価結果

転倒リスクのある高齢者の割合は、市全体で34.6%となっています。

圏域別にみると、高階が44.4%で最も高くなっており、唯一40%を上回っています。一方、川鶴、芳野、山田では30%を下回っています。



9 IADL(手段的日常生活動作)が低い高齢者の割合

①設問と評価

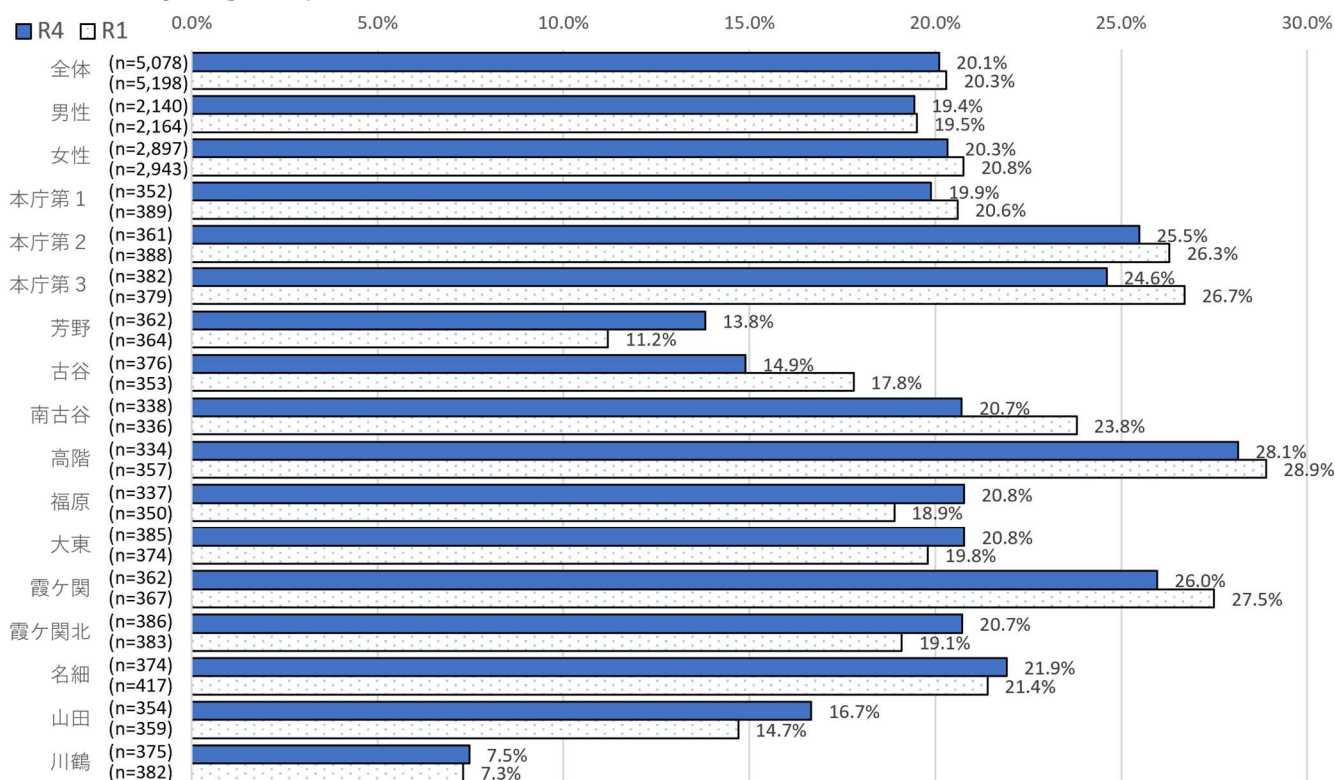
以下の5つの設問で該当する選択肢を選んでいる場合を1点として5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価します。

設問	調査項目	選択肢	判定
問4(5)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「できるし、している」または「できるけどしていない」	左記設問の選択肢を選択した場合に1点とする
問4(6)	自分で食品・日用品の買い物をしていますか	「できるし、している」または「できるけどしていない」	
問4(8)	自分で食事の用意をしていますか	「できるし、している」または「できるけどしていない」	
問4(9)	自分で請求書の支払いをしていますか	「できるし、している」または「できるけどしていない」	
問4(10)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「できるし、している」または「できるけどしていない」	

②評価結果

IADLが「低い」または「やや低い」高齢者の割合は、市全体で20.1%となっています。

圏域別にみると、最も割合が高かったのは高階の28.1%で、最小の川鶴(7.5%)となっています。



10 老研式活動能力指標総合評価

①設問と評価

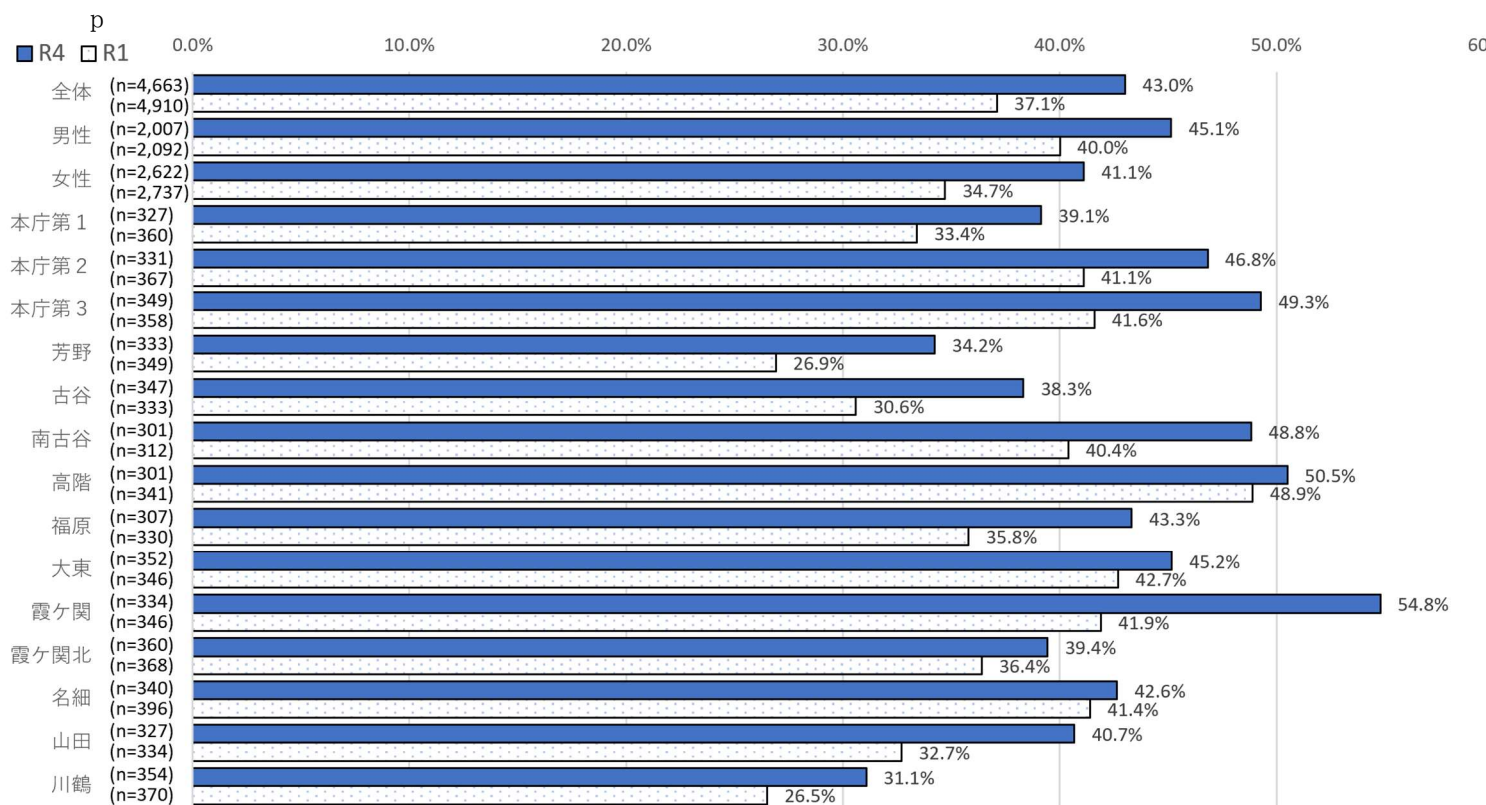
以下の13設問で該当する選択肢を選んでいる場合を1点として13点満点で評価し、11点以上を「高い」、9～10点を「やや低い」、8点以下を「低い」と評価します。

設問	調査項目	選択肢	判定
問4(5)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「できるし、している」または「できるけどしていない」	左記設問の選択肢を選択した場合に1点とする
問4(6)	自分で食品・日用品の買い物をしていきますか	「できるし、している」または「できるけどしていない」	
問4(8)	自分で食事の用意をしていますか	「できるし、している」または「できるけどしていない」	
問4(9)	自分で請求書の支払いをしていますか	「できるし、している」または「できるけどしていない」	
問4(10)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「できるし、している」または「できるけどしていない」	
問4(11)	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「はい」	
問4(12)	新聞を読んでいますか	「はい」	
問4(13)	本や雑誌を読んでいますか	「はい」	
問4(14)	健康についての記事や番組に関心がありますか	「はい」	
問4(15)	友人の家を訪ねていますか	「はい」	
問4(16)	家族や友人の相談にのっていますか	「はい」	
問4(17)	病人を見舞うことができますか	「はい」	
問4(18)	若い人に自分から話しかけることができますか	「はい」	

②評価結果

老研式活動能力指標が「低い」または「やや低い」高齢者の割合は、市全体で43.0%となっています。男女別にみると、男性（45.1%）が女性（41.1%）を4.0ポイント上回っています。

圏域別にみると、霞ヶ関が54.8%で最も高くなっており、前回の調査から12.9ポイント上昇しました。霞ヶ関以外のすべての圏域においても、割合の上昇がみられました。



《リスク判定結果 圏域別一覽》

(単位：%)

圏域	運動器機能リスク	低栄養状態	口腔機能が低下している	閉じこもり傾向	認知症リスク	うつ傾向	咀嚼やく機能リスク	転倒リスク	IADLが低い・やや低い	老研式活動能力指標総合評価が低い・やや低い
本庁第1	25.2	2.6	34.2	18.7	49.0	45.7	36.6	34.5	19.9	39.1
本庁第2	34.2	2.3	26.8	22.5	48.2	44.0	33.7	36.2	25.5	46.8
本庁第3	30.8	2.2	29.4	26.0	44.3	48.7	37.2	33.1	24.6	49.3
芳野	13.6	2.5	27.3	12.9	43.1	43.0	32.5	29.6	13.8	34.2
古谷	16.8	1.1	28.3	15.6	48.1	36.2	39.5	33.2	14.9	38.3
南古谷	25.1	3.4	32.6	17.0	48.7	45.8	39.1	34.6	20.7	48.8
高階	44.6	1.0	31.7	21.7	50.0	50.2	39.4	44.4	28.1	50.5
福原	26.0	0.9	31.9	22.9	44.7	47.7	38.4	34.3	20.8	43.3
大東	32.8	1.7	30.6	18.9	52.2	49.7	37.0	38.5	20.8	45.2
霞ヶ関	34.1	2.3	31.2	26.4	47.0	52.3	39.6	39.7	26.0	54.8
霞ヶ関北	27.7	1.9	30.3	15.2	47.2	45.9	37.3	36.5	20.7	39.4
名細	30.1	2.2	33.2	18.9	46.9	49.2	39.9	33.1	21.9	42.6
山田	18.7	2.3	31.0	14.1	41.2	44.4	33.6	29.9	16.7	40.7
川鶴	11.8	0.6	23.5	11.2	43.2	44.7	29.1	27.1	7.5	31.1
市全体	26.5	1.9	30.1	18.7	46.7	46.2	36.6	34.6	20.1	43.0

